京城日報
十三日夕刊
發行所 京城日報社

○南方も總統擁立か
南方は黎元洪氏の南下に望みを絕ち兩江巡閲使陸榮廷氏に代行總統に就任せんことを求めつゝあり(北京特電)

○宣戰後の謠言取締
馮大總統は步軍統領江朝宗、警察總監吳炳湘氏等を召喚して宣戰後に於ける京師の謠言蜚語の類を嚴重に取締るやう訓戒を與へたり(北京特電)

○最後の國務院會議
國務院は最後の會議を開き宣戰布告の期日を定むべし(北京特電)

○宣戰布告期近づく
北京政府の對獨宣戰後各省の防備如何に就き問合せ中の所何れも防備完全せる旨返電し來れりと宣戰布告の期愈々近きにあらん(北京特電)

○露國國防委員會創設か
露國臨時政府は國務に關する一切の問題の最高議定機關たる特別委員會を創設するの意あり(倫敦電報)

○レーニン瑞典に逃る
露國の共產主義者にして獨探なるレーニンは瑞典に逃れ來れり(倫敦電報)

○獨社會黨首領威嚇さる
獨逸官憲は獨立社會民主黨首領ユーゴー、ハーゼ氏の家宅搜索をなし猶氏にして引續き非愛國的言論を弄するに於ては氏を國民勞役に服せしむべしと威嚇せり(倫敦電報)

○米軍人死傷賠償案提出
米國軍人に對し其の死傷に對する賠償として保險を附し且つ正金を與ふる法案米國議會に提出せられたり(紐育電報)

○國庫證券發行
十三日公表されん

東西シンヂゲート銀行團は十一日、日本銀行樓上に會し臨時國庫證券發行に關し勝田藏相と協議したるが發行條件其他の細目を決定したるに付十三日其の內容公表さるべし(東京特電)

○朝鮮輕鐵總會
朝鮮輕便鐵道會社第三回總會は十一日鐵道協會に開會し當季六朱の配當を議決したり(東京特電)

○宮尾長官消息
新任關東都督府民政長官宮尾舜治氏は十一日夜連絡船壹岐丸にて釜山に上陸せしが京釜線水害にて不通の爲め鐵道ホテルに投宿し十二日朝東萊に赴き十二日午後十一時半發列車にて出發の筈なり(釜山特電)

◉石塚總裁出發
金剛山に旅行中なりし石塚東拓總裁一行は十二日朝元山發歸京の途に就けり(元山特電)

◉佐々木長官東上
佐々木慶南長官は十一日夜新羅丸にて釜山出發東上せり(釜山特電)

○英國總領事歸鮮
京城駐在英國總領事ローズ氏は十一日夜著釜鐵道ホテルに投宿せるが十二日午後十一時半發列車にて歸任すべし(釜山特電)

◉櫻井臺銀頭取
櫻井臺灣銀行頭取は十二日基隆より門司入港の信濃丸にて來著したり(門司特電)

○北行列車釜山發
十二日午前十時半釜山發北行列車は京城に直通の見込にて發車せり(釜山特電)

◉中央の對四川策
雲貴軍の四川進入により同省の形勢日に益々險惡と爲れるより中央に於ては之が恢復策に腐心し居れるが戴戡の兩氏は國務院に宛て雲南軍は中央の命令に遵はずして嘉定等の處を占領せり雲南軍の意中は四川を割據せんとするにあれば中央より速に援兵を派して討伐されたしと電請し來れるより段總理は直ちに各地の守備を嚴重にし客軍をして任意に占領せしむる勿れと電命を發し一面唐督軍に宛て速かに四川の雲南軍を撤回して秩序を回復せよ若し再び違命せざるに於ては武力を以て解決すべしとの電報を發し猶八日付にて大總統の如き命令を發せり

「前回四川省城駐屯の雲川軍衝突に因り中央は劉存厚羅佩金の二人に上京を命じたるも未だ出發せしを聞かず而して劉存厚は成都內城を攻圍して戴督軍を放逐し以て資仁嘉定等に川雲兩軍の禍を醸き地方を糜爛す是れ中央の命に從はざるものなれば吳光新を派して切實に査辨せしめ羅佩金劉存厚は各其の軍隊を周道剛に引渡し直ちに上京すべし雲貴兩軍の進發途中に在るものは速かに撤退すべし戴戡は四川の在任中備に困難を嘗めたり現在兵間に輾轉して行衞不明となる懸念殊に深し委員を派して確實に調査せしむるに四川省は屢々兵災に遭ひ人民疲弊す宜しく休養せしむべし今回成都商民等よりの來電に依れば深く惆悵に堪へたり吳光新に二十萬を携帶して撫恤せしむ」(北京)

◉參議院尙未定
臨時參議院の召集に就ては已に多省の同意ありしが近日又た否とし其の消息を斷てり某重要人物の談によれば參議院問題は尙ほ二個の重要事項あり卽ち同議員數及び議員の選擧法[illegible]れなし議員數は未だ何等の定議あらざるも其選擧法は已に各種の草案あり其中最も有力なるは各省の議會より推選するにあらされども此れとて未だ確定せしに非らず之れを要するに參議院の開會は猶幾多の曲折と時日とを要す可く目下の處其の開會時期は到底豫測する能はず(北京)

◉參謀總長如何
辭任を申出でたる參謀總長王士珍氏は人と爲り恬淡にして無慾なり今回辭職の心なかりしは大衆の認むる處なるも只老年にして職務を欲せず夫人と分居する事數年なるを以て今や家族を携へて郷里に歸臥せんと欲し惜てこそ辭任を申出でたるものなるが當局は其後任として今回[illegible]る功勞ありし斯雲鵬氏を任命すべしとの說あり(北京)

◉朝鮮簡易保險
朝鮮簡易生命保險實施に就ては當局も研究を續け第三十七議會に提案の筈なりしも同議會解散のため其の儘となり居れるが最近に至り內地新聞中總督府當局は朝鮮郵便貯金の實狀並に民度より見て朝鮮に簡易保險を實施する事は尙早なりとの意見有力を占め議會提案を見合はしたりと報ずるものあるも某當局に就て質す所によれば未だ簡易保險案の議會提出を見合はす事となりたる事實なく依然講究中に屬すと云へば多分今冬の議會に提案を見るべし

◉列車不通と郵便
電信は全部復舊

京釜線大田、永同間の汽車不通に付き郵便物の如き北行の分は永同驛止りとなり南行の分も大田驛止のまゝ停滯し居れるが鐵道の應急工事成り豫定の如く十二日夜列車開通せば遲くも十三日未明迄に北行郵便物の全部京城へ到著すべきを以て十三日午前中には市中の配達を了する事を得べしといふ、更に電信に至りては十二日水害の爲め大田、永同間の電信線に六個所も故障を生ぜしを以て不能となりしが應急工事の結果同十二日午後十時より送信及び受信共全線開通したるを以て今日に於ては電信に於ける故障全く除かれ平素の如く通信し得るに至れりといふ

◉京管淘汰說
滿鐵にては近く京城管理局員の淘汰並に更迭及び滿洲在勤者との入れ交へを行ふべしとの說を作す者あるが確聞する所によれば滿鐵は其の鮮鐵の經營百般に關する方針を當分の間從前通りとし出來得る限り激變を避くべしとの方針を把持するやにて其の社員の淘汰交任の如き大正七年四月以降に入らば若干を實行すべき事は絕無と曰ひ難きもそれ以前には殆んど動搖を見ざるべしとの事なり

◉宮尾長官通過期
新任關東都督府民政長官宮尾舜治氏は十二日朝京城通過北行赴任の豫定なりしも京釜線不通のため釜山に留まるの餘儀なきに至りしが京釜線故障區間も十二日夕刻までに開通せしに付多分十三日朝京城通過の事となるらん

◉石塚總裁歸京
東拓總裁石塚英藏氏は去月三十日以來忍子夫人令息令嬢同伴金剛山へ探勝旅行中なりしが十二日午後五時十分南大門驛著列車にて歸京したり

◉安藤出張所長榮轉
東京火災保險株式會社京城出張所長安藤眞雄氏は今回同社神戶支店長に榮轉し不日出發赴任の筈なるが後任として中村總三郎氏著任せり

◉秋山大將留別宴
十五日歸東すべき秋山軍事參議官は既報の如く十二日午後七時より朝鮮ホテルに留別宴を開きたるが招待に應じたるは各官廳課長並に同格以上の者、官大尉以上の在京武官、銀行會社重役並に代表者新聞通信代表者等約三百名なりき

◉愛媛縣人會
秋山大將送別茶話會は十一日午後三時京城ホテルに於て開催せり會衆四十餘名大久保雅彥氏發起人を代表して挨拶を述べ是に對し秋山將軍より懇篤なる謝辭あり琵琶其の他の餘興あり歡を盡して午後七時頃散會せり

◉滿鐵總會期
滿洲鐵道會社にては職制の改正に伴ふ定款改正案を附議するため二十五日東京に臨時株主總會を開會すべき事に決定したるが中村理事長は右總會に列席のため二十日迄に東京へ到著する豫定を以て朝鮮經由東上すべし

◉浦鹽航路近況
朝郵の新造船千安丸(一千五百噸)は其後總督府の命令航路たる元山浦鹽間に就航しつゝあるが乘客は露國々境封鎖のため又貨物は同國禁入に付殆んど絕對に積載し得ず唯僅に特種貨物あるのみにて頗る船腹に餘裕ありと

◉朝郵船腹準備
朝鮮郵船會社にては航路發展に對する準備として買船若くは傭船の計畫ある事は既報の如く最近吉田專務が東京大阪方面に出張したるは右に關する用向なりしが其の結果は直ちに傭船又は買船をなす迄に段取を進むる能はざりしも若し朝郵にて新開の航路を初むるに至らば適當の船を傭船し得る準備は整ひ來れりと

◉遼陽と日本品
砂糖、石油、商狀

遼陽及び其附近に於ける砂糖消費年額は約七千叺(一叺は百三十五斤入)にして日本糖は其過半を占め其餘は太沽洋行取扱の香港糖及び怡和洋行の廣東糖なるが日本糖は明治日本兩製糖會社產にして現在の相場は一叺十七圓五十錢見當南支物は一圓高を示せり需要の割合は白及び中白二と四の割にて氷砂糖は五十斤入年三百函內外、更目糖等は云ふに足らず又

▲石油 は從來美孚洋行(米國スタンダード)及び亞細亞公司(英國ライジングサン)兩會社物が市場に相當の勢力を有し兩々相下らざる狀態にありしが歐戰開始後英國品は入荷減退の傾向を生じ其の結果として米國品漸次優勢の地位を占め來れり而して此の間特筆大書すべきは絕對に輸入を見ざりし本邦品が一昨冬蓬萊堂の日本石油會社代理店として其の製品の販賣を開始して以來着々其販路を擴大しつゝある事なりとす現今市場に取引せらるゝものは米油にては美牌(六圓六十五錢)虎牌(六圓三十錢)鷹牌(六圓三十錢)英油にては錨牌(六圓三十錢)帽牌(六圓三十錢)日本品は蝙蝠印(六圓十錢)のみにて寶田石油は昨年中若干の輸入ありたるも今日にては其姿を見せず目下試賣中の者には三井取扱ひの米國品星印(六圓五十錢)幸福印(六圓十五錢)あり相場は戰前に於て一箱洋四圓六十錢見當なりしも戰後暫時昂騰し來り昨春には八圓內外を唱ふるに至りしが夏に入りて六圓臺に低下し爾來原狀維持の狀態にあり遼陽及び附近の年消費額は約四萬五千函にして販行の割合は米品四割五分英品三割日本品六割五分見當にして邦品の勢力未だ充分ならず(遼陽)

◉朝鮮大豆輸入
從來朝鮮より大連へは大豆の輸入皆無なりしが今回當地三井支店は仁川大豆六百噸を輸入せり用途は這般大豆取引の寶玉に備ふる爲なりと(大連)

◉平南織布產額
平安南道に於ける大正五年度綿布產額は二萬六千二百十一疋及び作蠶織一千二百三十一枚價格十七萬一千七百四十四圓にして綿布は三十萬二千六百十一疋價格四十五萬九千二百十一圓麻布五萬四千十五匹價格十萬一千七百五圓交織布一百二十二匹價四百四十八圓にして總價格七十三萬三千一百八十圓なるが之れに從事する戶數は十萬八千十七戶なりと云ふ

◉全北秋蠶上簇近し
全北道に於て曩に管內各地に配付したる本年度秋蠶種配付數は五千七枚なるが其の飼育狀況を聞くに未だ成績の良否不明なるも蠶兒は既に一齡を過ぎ遲くとも本月二十五六日までには全部上簇を見るに至るべしと因に蠶兒成育上に於て昨今の如き蒸熱は甚だ宜しからず此際手入を怠り若くは誤るが如きことあらば或は意外の不結果となるやも知れずと

◉大阪財界近信

▲實業組合聯合會 支那關稅問題發生以來各實業組合の團體を組織して將來起るべき各般の問題に關し關係業者に有利なる解決を與ふ可しとの希望頻りに唱道され各組合間に內議中なりしが來る十一日午後大阪ホテルに之が協議會を催し具體的意見の決定をなす筈なりと

▲東淸値上內容 東淸鐵道運賃引上げ實施につき東淸商業部より浦鹽商船代理店への通知に據れば値上の內容は左の如し

第一、本部電信に依り本年七月十五日より東淸鐵道運賃左の通り引揚げ當社線及び全直通旅客及び手荷物五割增

第二、貨物運賃及び荷物を含む全列車を通じ當社線二倍

東淸南滿及び日滿ウスリー東淸直通共二倍例外タリフ浦鹽經由出大豆穀物及木材を除く

第三、浦鹽經由出大豆其他穀類運賃は三割增

第四、露淸通し出入貨物運賃は三倍

第五、附帶費即ち停車場費及積替費手荷物及貨物共各種列車を通じ本年七月十日附電信第二六二九ウスリー及烏鐵道と共に相當のものとす

第六、運賃引揚は七月十五日受附分よりとす

因に鐵道運輸局の提議に係る商船其他承認の下に同局より東淸本社に照會したる同鐵道値上問題を双方の委員會議に附議協定の件に關しては東鐵側より何等の回答無しと

▲苛性曹達強硬 米國政府は苛性曹達の輸出を禁止せるが當地藥品市場にては石炭酸に次で苛性曹達は俄然強硬となりて七日以來頗る高氣配を呈し十八九圓より二十一圓と相場昂騰せり最近著電によれば米國は一流會社の製品を全部徵發せる模樣なれば愈禁止とならば內地市場は狂騰を免れざるべく目下本品相場は二十圓五十錢唱へなりと

▲米石炭酸禁輸 七日當地某所著電によれば米國政府は新に輸出禁止品目中に石炭酸を加へたりと之が爲め從來石炭酸の大部分を米國より輸入を仰ぎ居たる本邦藥品界は既に色めき立ち相場封度一圓八錢より廿三錢に奔騰せるが現在品拂底の折柄先行輸入困難ならば奈邊まで相場昂騰するか殆ど豫測し難しと云ふ

【經濟】鎭南浦

▲七月貿易 鎭南浦の七月貿易移出入總貿易額は百九十萬圓に達し是を前年同月に比し百十萬圓の增加にして本年前月に比し二十二萬圓の增加なり計は實に九百二十五萬圓に達し前年同期に比し四百餘萬圓の增加なれば今後假に年末迄前年の貿易額を保つものとするも年額は一千六百萬圓を計上する事となるべし

▲七月金融 米穀及び綿系布の突飛奔放は金融界の活況を誘致し確格の統計を示したる前月に比し好く次の如き月末殘の數字を表現する事を得たり

	七月中	六月中
手形	二、三三二、三三〇	二、三九二、七九六
預金	七五九、四一九	七五七、七九三
貸出	一、九四三、五五二	一、七四五、七九一

▲運送賃値上 運送組合に於ては人夫賃其他諸式の昂騰甚だしきものありて現行率にては堪へ難しとなし二割乃至三割の値上を爲す事に決定し其圓滿實行を圖るため先例に則り商業會議所へ仲介を依賴したる由なるが同所に於ても已むを得ざるものありと認め追て主なる關係者へ圖る處あるべしと

◉嶺南より
五道踏破旅行記者 李光洙

◇部長室に入れば愛想よき微笑を連發して相手を恍惚たらしめ候、「貴公の文は面白く讀んで居る」と一寸賞めて置いて、旅行中の感想は如何、京城出發當時の朝鮮觀と只今の朝鮮觀には變りなきや等、流石は本職だけに際どき逆問を浴びせ掛けられて膽若たること暫時、小生とて可なりの御喋りなれば、默せん筈なく滔々と辯じ立つること數十分に及候。

◇東京の朝鮮留學生は朝鮮を解せず鮮人靑年の急務は朝鮮を解する事なり、譯も知らで四疊半の空論にのみ耽ける、四疊半の空論は書生の特權なり、其の無邪氣なる寧ろ愛すべしと云へども、朝鮮に歸り實社會に入りてまで斯かる空論を弄せられては甚だ以つて迷惑なり、斯かる輩は遠慮も會釋もなくどし／＼處分せざるべからず、此に反して穩健に社會の爲め努力する者は、之を保護し賞讚するに吝ならず、君は先覺者として此の意を留學生諸君に傳へよと云はるに、小生は煙に卷かれたる心地して如何に御答すべきや一寸途方に暮れ申候

◇七八年前の留學生は、今日の所謂危險思想も抱き居りしならん、而も當時に於いては、其も過渡時代として彼我事情の疏通を缺ぎ、復た止むを得ざりしもの其間に存せしなり、而も今日に於て若し當時に於ける如き思想を抱けば、其は無論危險思想なり、されど東京の朝鮮留學生中一人の大物として自ら任ずるものは、決して當局にて疑ふ如き思想を抱けるにあらず、彼等が口に筆に產業の發達教育の普及社會の改良を以つて已が進路となすを見ても知るべきなり彼等が妄りに當局に迎合するの言辭を弄せず、一意朝鮮民族の向上發展に急なるものあるを見て、或は其危險思想あるを疑ふものあるも、是は餘り細心に過ぎたる過慮にして、かゝる靑年こそ將來眞正の愛國心ある元氣と膽氣に富める國民たるなれ、彼等は決して時勢に逆行する如き愚をなさゞるべし、口に甘き事を喋々せざるも、尤も穩健に朝鮮の發達の爲め努むべき者たるなり、留學生中には個々危險思想を抱ける者もあらん、されども其は數ふるに足らざる程極めて少數なるべし、大多數は明らさまに云へば順良なる人物なり、よしや四疊半に於いては無邪氣に勝手なる熱を吹くと云へども、一旦玄海灘を渡りて具に朝鮮なるものを見んか、渙然として氷釋する所あるべし、但し遺憾なるは、彼等が朝鮮なるものを知らざることゝなりと柄にもなき大氣焰を上げ候。小生も留學生の一人なれば、留學生の爲に辯ずる必ずしも徒爾ならざるべしと語を結べば、部長は然り然り宜敷賴むなぞ愛嬌たつぷりにて候。

◇警務部を辭して旅館に歸れば汗びつしよりなり。無闇に水を浴びて晝飯を喫す。其の熱きこと御話にならず、寒暖計の水銀は九十八度を指し居候。南江の邊の風通好き二階にてさへ斯くの如しとせば、町の眞中は百度以上なるべく候。

◇ゆつくり一休みして夕陽の涼風の吹き出す頃、晉陽の勝景を探ぐるべし。匆々不一。(八月二日晉州にて)

◉正誤
前號夕刊一面「總督府赴任」と題する記事中自動車を驅りてとあるは馬車を驅りての誤りに付正誤す

人事消息
▲森岡英士氏(開城署長) 十一日午後赴任
▲矢田開城憲兵分隊長 同上
▲關屋貞三郎氏(學務局長) 十一日午後水原へ
▲時永浦三氏(總務課長) 十一日午後仁川へ
▲本宿家全氏(海關商業學校長) 十一日午後安東方面へ
▲向坂幾三郎氏(水原模範場技師) 十二日午後入京浦尾旅館へ
▲水谷千萬吉氏(平壤鑛業所長) 十三日朝入京浦尾旅館へ投宿の筈
▲淺海俊雄氏(京大工科教授) 十二日朝元山へ
▲深見道郎氏(黃海道第二部長) 十二日夜歸京の豫定
▲小杉鐵五郎氏(平壤無煙炭會社技師長) 十二日朝入京不知火旅館へ

濟州島の海女（六）

八重の潮路を遙々と

青島の海上までも征服してゐる

海女に取つて一番恐いものは俗に云ふ轉筋と鮫鱶の襲擊である、但し轉筋は多年の經驗でそれと氣が付くと直ぐ應急の措置を取るから、滅多に命を落すやうな事はないが鮫鱶だけは然うは行かぬ。曾て或る若い海女が海に潜ると直ぐ此の鮫鱶に襲はれた事がある、印度藍色の海面が一瞬の間に

◇紅の血潮 に彩られたので始めて夫と分つたが、眼前此の慘狀を目擊した、他の海女達は何れも云へぬ悽慘の氣に打たれ、異萎になると共に命から／＼陸地に匐ひ上つたさうだ、此の外斯うした恐しい話は澤山にあるが際限がないから措くとして、偕て耽羅誌によると濟州島民は

◇進取の氣 象に乏しいと云ふ事だ昔は何うだつたか知らぬが今日の島民は進取の氣象に乏しいどころか外に向つてドシ／＼發展して居る、山口縣の大島郡は日本に於ける唯一の出稼島として知られて居るが今日の濟州島は實に朝鮮の大島郡と云つても好い位、陸に耕地が少なければ其の餘力は勢ひ海上を征服するか外に向つて發展するの外はない濟州島に出稼人が多いのも詰り

◇此の原則 に依るので殊に海女は其の尤なるものと云ふべく慶尚南北道から江原道の沿岸にかけて盛んに活躍して居るのみか、今では八重の潮路を遙々と青島の海上にまで遠征して居る。これ等の海女の中には出稼先で出雲の神樣の支配を受け飛んだ艶つぽい噂の種を蒔くのもあれば美事

◇大願成就 想ふ男と世帶を持つて其の墳墓の土となるのもあるが、兎も角引込み勝ちの女の身で故郷遠く異郷に乘出すところは異に雄なしさの極みと云はねばならぬ濟州島には未だ此の外餘り世間に知られて居ない珍聞奇觀が澤山ある、漢拏山の椎茸栽培、西歸浦は

◇天地淵の 神秘、耕馬を使用して畑地を踏み固める獨持の農業など、書けば必ず讀者の興味を喚ぶ價値はあると思ふが、夫等は何れ稿を改めて紹介する事とし、取敢す今回は名物海女の生活だけを記述して筆を擱く事とする（完）

◇防陣網

防陣網は地曳網の一種で濟州島では專ら鰮漁に使用してゐる、鰮は海女の採取する貝や海草類と共に濟州島の產額とも云ふべく島民に取つては最も重要な命の糧である防陣網で取れた鰮は主として干鰮や鰮粕に製造して內地に移出される以前は海中に石垣を築き其の中に這入つた鰮を干潮の際にカチで抄つたものださうなが之を思ふと濟州島の漁業も發達したものである海女を紹介した序に一寸——

朝鮮婦人の抱合心中

原因は家庭の不和

高陽郡渠仁面磐里百五十七番地李氏（一八）同里百三十番地李姓女（三二）の兩名は八月九日正午頃揚州郡蘆洞面倉洞牛耳川の北側なる溜池に抱き合て投身自殺を遂げたり程經て兩人の屍體が浮び居れるを里民が發見し憲兵出張檢視の上屍體は各家人に引渡せり李姓女は姙娠三箇月の身にて原因確かならざるも兩人共家庭に伏在したる事情あるもの、如く悲觀したる末互に情死を決して此の始末に及びたるものならんと池畔には便壺二個を遺しありたりと

憲兵伍長濁浪に沒はる

居昌の豪雨被害 十三名行衛不明

十一日午後二時よりの豪雨にて慶南居昌陝川附近の出水十五尺に達し居昌邑內にて流失したるもの二十戸あり浸水したるもの三十戸に達し附近の警戒に任じゐたる憲兵伍長池田久雄及び鮮人十二名行衛不明となれりと其の筋に電報ありたり

京元線全通

十二日より復舊

十一日朝來豪雨のため不通中なりし京元線漣川全谷間の不通區間は當局に於て極力復舊に努力せしも豫想程度激甚にして同夜までは開通せざりしが尚ほ工事を續行せし結果十二日午前四時に至り全通せしに付十二日朝南大門及び元山兩驛發列車より通常通りとなれり

京釜線十二日夜行より全通

稀有の豪雨出水により線路大決潰を來し十一日來不通となりし京釜線大田沃川間は何分其の被害激甚にて或は其の復舊までに三四日を要すべしとの說ありしも滿鐵京城管理局にては殆んど全力を舉げて其の復舊に努めし結果十二日午後四時より開通せしを以て南大門發は十二日午後七時五十分の夜行列車より釜山は同十一時發列車より全通すべし

▲大田の混雜 大田沃川間不通のため大田以南行きの旅客は多數大田に下車し全通を待ち居れるため同地旅館其他は非常の混雜を來したりと

▲稻垣課長急行 京管稻垣工務課長は大田沃川間不通區間の修理工事督勵のため十二日早朝現場に急行係員を叱咤鞭撻して工事の速成に努力したり

趣味と實益の兩方面から

▽此の頃京城の上流家庭に大流行の絞り染

京城の婦人界にはこのごろ絞染が大流行となつた、講習は先日來岩谷縫子氏の教授によつてすでに兩三回も催ほされたが猶一二回行はれる筈。何んでも

◇手輕に 出來て且つ趣味と經濟と二つ共得られるので內地などでは到るところ小學校、女學校の家事科の中に加へて居るといふ、京城の婦人方も昨今は非常な御上達で古い帶側を好みの柄に染め直したり縮緬の

◇羽織の 色あげをしたり昨今はなか／＼の御熱心といふことである講習ははじめ完全な洗濯の方法から次いで染料の用ゐ方などを說明し僅に二三日の間に京染屋を凌ぐ腕前となるので一般の家庭向きには頗る有益なことであらう、昨今染料は暴騰したけれ共それでも

◇薄色物 なれば一反二十錢許りの染料で仕揚り黑の縮緬の羽織などでも極度の色でありながら二圓四五十錢で立派に仕揚る、これを京染屋の手に委せて一枚六七圓も支拂ふよりは遙に經濟向きであらう、殊に古浴衣などに至るまで立派に染め替へられ廢物利用も充分能きる、

姦婦の盜み

忠南公州常盤町六四金鳳泌（五〇）の妻李節龜（三一）は禮山生れの洪士汝（四七）と道ならぬ仲となり本年五月頃逃げ出したるも生活に困り姦婦の李は本月六日一人にて公州へ歸り其夜旭町の警察署小使安相吉方へ忍入り茶褐色の洋服一着に麥稈帽を窃取し八日午前一時頃件の洋服帽子にて男裝し本夫方に到り甘言を用ひて誘き出しその留守に忍び込み家中の衣類全部を盜み出さんとするを引捕へ警察署へ突き出したり（公州）

十三年振 大田の大洪水

市中の落雷四箇所に及び全市殆んど浸水＝京釜湖南線不通

本月八日大豪雨あり二十餘日間暑熱に苦しめられたる大田地方は漸やく蘇生したるが十一日午前六時より豪雨來り電雷閃めきたるが午前十時頃よりは

▲大田川を始め 大小の河川一時に增水し前の洪水に決潰したる本町一丁目中央の大東川の堤防より先づ市中に向つて浸水を始めたりと見る間に濁水は滔々として數十戸を一時に浸水し更らに本町二丁目の改修工事中なりし鐵道線路一部決潰したるを以て濁浪押寄せ大東川に注入したる爲め本町二丁目も又濁水滔々として

▲一面の大泥海 と化するに至り附近の交通路を杜絕するに至れり然して危險は刻々增し來れるより步兵第七十九聯隊は二個中隊を數班に分けて救助及び警戒の爲め出動し午前十一時頃には大東川の橋梁三四流失し外南面倉成農場方面より流下する大東川の河畔の鮮人部落は

▲前回の洪水に 多大の被害あり復舊工事猶半なるにも拘はらず又もや今回の大洪水で一たまりも支へ切れず半壞流失殆んど數知れず危險の度刻々增し來りしも軍隊、警官消防夫等の警戒にて大なる損害を見ず正午頃より漸次減水を見たるを以て人畜の死傷を見るに到らざりしは不幸中の幸と云ふべし一方大東川の第一第二の合流點より横溢したる

▲濁水滔々と して本町一丁目全部を洗ひ其の餘勢は元松島町通り一圓を洗ひ更らに春日町の裏通り岐阜町一圓を浸したりしが午後一時頃に到りて漸次減水を見るに至れり古老の語る處に依れば今回の大洪水は十三年振りなりと又この洪水の爲め田畑の損害商品の濕潤損害も多くこの外大田市中の落雷四箇所あり即ち木尺里の鮮人旅館日光館に落雷し鮮人一名震死し又岐阜町

▲料理店荒川樓 附近に落雷したるも人畜に死傷なかりしと其の外非常の危險なりしは春日町一丁目又た大田中學附近の堤防は殆んど決潰に近く校舍の西側便所附近は殆んど濁浪中にありて基礎工事の幾分を洗はれたるあり危險非常なりしと其の出水の爲め京釜線中大田沃川間、沃川伊院間の京釜線は線路に故障を生じ午後零時三十分大田驛發の釜山行急行列車は大田に立往生の巳むを得ざるに到り又湖南線にありても大田佳水院間就中大田川の下流に於て線路決潰を來し同線の列車も不通を見たり（大田）

水に溺れた時 何して救ふか（一）

土地調査局 石黑六郎氏談

◆先日漢江では有爲の青年が溺死したが氣の毒なことである、觀海流では五十町泳ぐ者が初段で、五里が參段免許、七里が皆傳としてゐるがむかしは皆傳となると膝頭に墨をひいたものである、これは膝より深い水中に入る勿れとの誡めとされてゐるが却々意味深長である次に記すのは溺死者の救護法である

◆泳ぐ人が水に入る時、靜かに身體を濡らし自重して用意すべきは人の知るところ、水泳中どんな事も頭は日光に照らされるから五分毎に水に濡らさねばならぬ

◆溺れた人を見た時よく素人は前後を忘れて飛び込むがこれは大禁物である、溺れた人はこんな時一生懸命に抱きつくから奈何なる水泳の達人と雖もやられて了ふ。五ッ六ッの小供なら兎に角十四五才のものならば決して近づけてはならぬ、先日銚子の怒濤に呑まれた二詩人の如きも確かに此の類である

◆さらば此の場合どうすればよいか先づ大聲をあげて附近の人を呼ぶ事である而して溺れて居る人の傍まで泳いで行つて（先方の手が届かぬ距離）矢張り大聲に救ひを求めながらよく溺れた人を監視するのである何の爲めに斯くするかといふと溺れた人は初めは死力をつくしてばた／＼するがその後次第に水を飲むに從ひズボりと水中に潜り込むからである

◆那麽時にはすぐに溺れた人の身體を捕へ（モゥ此の時になれば抱きつかれる憂ひなし）耳でも手でもチヨツト摑むで居れば大丈夫であるからそれを引張つて陸へあがるのである◆また附近に棒か繩かあればそれをはじめに投げてやるがよい、此の時若し溺れた人が覺わぬやうなれば少々怪我をしても構はぬ覺わるまでに投げつけてやるもよし、愈よ摑むだならばそれを引きあげるのである

灯ともし頃

▲このごろ朝鮮通過で米國から本國へ歸る露西亞人は頗る多く何んでも革命政府の土地分配にあづかる心組みださうな▲現に南大門驛の案內係の一人も共進會當時米國へ行つた露西亞婦人にまた逢つたと語つてゐた▲朝鮮の鐵道で日滿聯絡の運賃を露貨に換算する率は此の八月中百留につき四十圓の割ださうな▲近來到るところ子供相撲が流行して毎夜元氣な裸體の少年を見るのは愉快である▲體育の爲めにも盛んにやつたらよからう▲夏になると氣がだれる所爲か此の頃列車內の忘れ物は却々多く其の中最も多いのが扇子に帽子に洋傘で御念のいつた向きには大事な手提鞄まで置いて行く人が尠くないと▲內地の工場に出稼ぎする鮮人の勞働者間はあまりゴタ／＼が多く且つ亂暴を働くのでこのごろは出發前に取締られてゐるといふことである

◎夏季講習會 南米倉町京城教會にては十三の兩夜に亘り九時より夏季講演會を開き渡瀨、山本、宮川の三牧師の講演ある由

◎正誤 前號朝刊「三面新報」はこれから沛斷が出來ぬ（下）と題する記事の末尾に「警務總監部衛生主任談」とあるは「京畿道警務部衛生主任談」の誤りに付正誤す

配達夫郵便物を著服す

[illegible]正五年六月より雇はれたる李應淑（二一）大正四年六月より雇はれたる朴吉[illegible]配達すること多く大抵二三日宛遲延するが如くなる上に中には雜誌を窃取するもあり此の程洪源警察署にて[illegible]

▲遲延せしめて二百餘圓の損害を與へ（應淑は約一千通を委託配達[illegible]

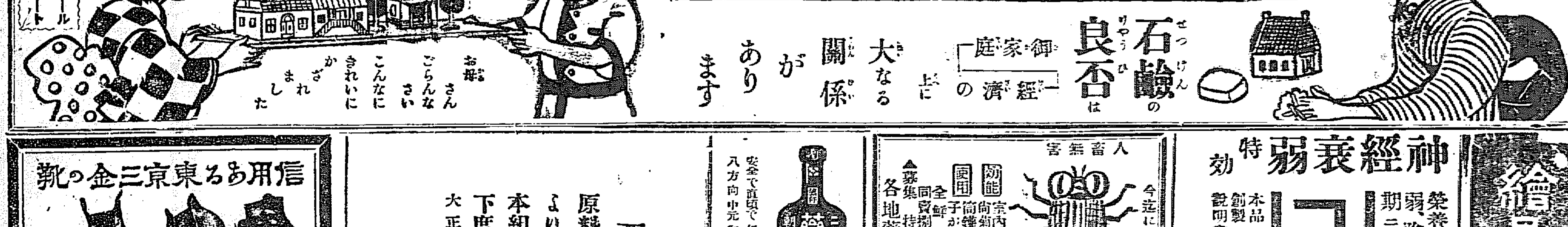
小娘を買ひして

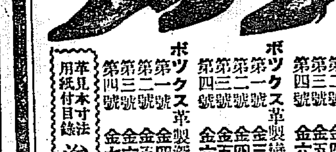
開城本町[illegible]松里高玉烱（二）は本年一月二十七日夜同里酒幕朴永洙方にて飲酒し同家[illegible]

課題及び募集規定

募集規定 [illegible]

天氣 くもり 晴一時曇り ▲八月十三日 [illegible]



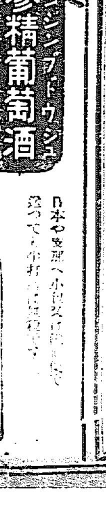


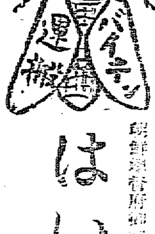
西洋洗濯工賃値上廣告

原料諸物價騰貴に付不得止來十五日より從前定價の貳割方値上致す事に本組合に於て決議仕り候間御承知被下度此段謹告仕候也

大正六年八月

京龍西洋洗濯業組合





神經衰弱特効

ユーキリン

榮養ヲ增進シ神經衰耗ヲ補フノ良劑 [illegible]弱、陰萎、榮養不良、結核諸症、腺病、重病回復期ニ適ス

本品ハ帝國大學教授本邦蛋白化學ノ泰斗[illegible]創製ニ係ル吸收性同化性ノ理想的有機性[illegible]說明書進呈ス、各地有名藥店ニテ販賣ス

東京室町 三共株式會社

京城府[illegible] 彩霞堂

…雇はれたる配達夫…本年三月より雇はれたる金充寛（二〇）大正五年一月より雇はれたる金俊容（二二）大…されたる郵便物を…務所に持ち行き面の小使又は洞里長等に依頼して宛名人に…したるもの約二百通、充寛は廣告郵便物を窃取し俊容は三千餘通の委託配達し…州里廳致達に配達すべき二通の端書を殊更に…等の一…ざりし…兩名は目下取調べの上各郵便法違反として裁判所に送られたり

…惑静から…申忍び行き殺すぞと脅しつけて無理往生に辱かしめて負傷せしめたることを發見して檢擧され京城地方法院にて懲役三年の處分となれり

鎭海灣の縮緬雜魚

魚も人間の棲む樣に生棲する―産卵は内海又は灣内に―魚の餌のクラントン

人畜の地上に生棲する如く魚貝の水中に生棲するも同樣の狀態にあるが水中にも實際の潮流に随ふて生棲の位置を變へ人畜の水源を逐ふて居を移すが如く一定の場所を定めざるものと一定の場所を定め子孫を殘して生棲するものとの二種がある、即ち潮流に遡逝する魚類はさば、ぶり、しび、いわしの如き者がそれにして、一定の場所に生棲する魚類は鯛、ちぬ、すゞき、あかかしら、ひらめ、こち等の魚類にて寒流に生棲する魚類はたら、にしん、さけ、ますの類なり又た之れ等の魚類にも

◆上中下の層に 生棲の區別あるもの…と其れ〴〵異なつて居るけれども産卵は殆んど各種の魚類は潮流に移はると又た元の季節に來りて一定の場所に産卵し之れを移はるものである、而して産卵の場所は何れも潮流の緩しからざる内海又は灣内を選ぶものであるが所謂に於て最も産卵に適せる場所としては

◆鎭海灣其附近 の島影の浪靜かなる處、釜山灣等も産卵の爲め季節に群を爲して來集することがある俗に縮緬雜魚と稱する小鰯は主として鎭海附近に産するものを上等として賞美せられて居る之れは孵化後殿貝の中に漁獲するものにて生育するに從ひて脂肪が多くなり爲めに干し上げたる時には魚油が惨み風味を害する爲め成るべく孵化の間もなき時に漁獲するのである

◆油が乘り來り たる鰯は鰯糟として肥料と魚油を搾ることゝす

る而して魚の季節とか漁不漁と云ふのは季節に從りて魚の廻游の終る時と潮水の温度に因りて水底又は深味の沖合に場所を移す爲めにて魚の種類に因りて陸近く接近する季節を異にするを云ふ譯にて之れを自然に漁魚の季節を唱ふる樣になつた天氣で又た俗に漁夫の潮が惡くて漁が無い杯と云ふは潮流中に發生するクラントン（浮游生物）の生じたる惡潮流の通過する際にて魚類は皆去つて潮水中に發生する

◆クラントンを常食とし て生育するものなれば自然監督の結き都面に移動するは當然のことである人は俗に鰯は鯨の飯となり鰹は鯨の餌を出しする鰯の群の層を遡るものとせるも鰯は終年通じて生棲するものにあらざれば

◆鯨に鰯は人間 の時々洋食を探ると同樣近よく出會したる際のみに御馳走となれるに過ぎず鰯も矢張りクラントンを常食として居るのである漁撈にも種々の網、各種の網、一本釣、地引網、延網等あるが魚の群集狀態に因り又た魚の種類に因りて漁具の使途を異にする昨今夏季の魚類は主として一本釣が適して、すゞき、はもの季節ものよりたひ、ひらめ、さば等も相應に釣に懸るものである延網は各種、地引網等は漁夫の多人數を要すれども一本釣は素人の遊漁に適して居る故に小舟を沿海に浮べて樂みに漁撈を爲すは夏季の遊樂としては最も興あるものである

夏の朝と子供の運動

夏の朝は子供の元氣の旺盛な時であつて、教育上から數ふべき事も多くあらうと思はれるが、私は自由な運動をとらせる事とし度いと思ふ。夫れには甚だ多少の休みをとらせても宜しいから一に朝起をさせることである、すると

◆庭園の廣い 家庭にあつては手放して置いても水撒きやら草花の手入れと思ふ儘の運動をする事が出來るのである又庭園のない家庭にあつては父親が朝の散歩に連れるとか或る場所に、近ければ寺院などとした

◆寺院の境内 の靜かな場所又はに伴ふのはよい事だと思ふ御飯前の

にあつては朝は公園などでは塵のない自然と云ふものゝ姿が一番よく眺められるから自然と云ふものになるべく近づけさせる事も出來るであらう。夏は又殊に草と仲よしませることも子供心に自と

◆動植物に愛 を持たせる方法で、これは庭のない家でも縁端で鉢植を置く事も出來やうし鳥籠を釣る事も出來るのであるから下町等の家庭には勸め度いと思ふこれは朝の事ではないが外國ではバルコニーと云つて

◆涼を納れる にはなか〳〵堅牢な手摺りが出來て子供等の遊び場となつて居るが、日本の物干は通例の物干にも少し工夫を工夫して庭のない子供達の爲めに遊び場を與へたいものと思ふ（某醫學士談）

救れた女歸國す

同情金百餘圓集る

忠清南道温泉里郵便所元雇員大野謙三の妻ひな女が夫の病氣を救はんとして身を沃川驛の某料亭に沈めたるを同地の同情者が氣の毒に思ひ樓主に談判して身の代金の半金を立替へ保護中夫謙三は京城の總督府病院にて敵なき最後を遂げたる事は本紙の屢々報道したる處なるが其後沃川の某氏等は普ねく在鮮の郵便事務關係者に檄を飛ばし同情金募集中なりしが渡る世間に鬼はなき譬へに洩れず百餘圓の醵出を得たるを以て身代金の全部を支拂ひ上京の旅費や夫謙三の死亡後の始末に使用せし諸雜費等を控除したる殘金二十餘圓を現金にて引渡したればひな女は同情者の好意を深く感謝し京城の某女に預け置きし幼兒も引き連れ亡夫の遺骨を携へて九日午後一時沃川驛發の南行列車にて郷里石川縣に向つて出發したる由なるが出發の際は異なる各同情者の同情に感泣し涙を流し居たる由

賊と刑事の格鬪

釜山草梁町三丁目李明突（三二）は前科四犯の曲者にて掏摸の大親分なるが六日午前十一時頃釜山署の刑事が富民町釜水河畔にて同人を發見し直ちに取押へんとしたるに突然刑事に組付上を下への格鬪を演じたるが刑事共に釜水河に轉げ落ち其の場を逃走したるより刑事は更らに應援巡査と共に行方を搜索し同人が富坂旅館の酒幕に入るを認むるや警官三人にて包圍したるに彼れは又も一方の包圍を破つて逃走したるより急追し大廳町三丁目綿屋の前にて遂に逮捕したるが日中の事とて一時は却々の騷ぎなりしが取調べの結果去月二十八日富平町日韓市場内賣藥露店前の人混みに乘じ年齢三十歳位の婦人の懐中より現金四圓八十錢入りの財布を掏りたるを手始めに何臣餘罪ある見込みにて取調べ中なり

濱の砂

■昔記上りの大敗 [illegible]

■話しから探偵 [illegible]

■顧客な女中 [illegible]

■死後の結婚 [illegible]

■七十年目開花 [illegible]

△千家の甘煮 [illegible]

おとぎばなし 鉢の女郎花

鉢植の秋の七草の桔梗の花もやさしく咲きました。女郎花もやさしく咲きました。

美代子は、毎日やさしい七草の花を眺めるのが何よりの樂しみで、日盛りに一度、夕方に一度はきつと忘れずに水をやりました。

ある日のこと、美代子は、お綴かたに硯と繪具と、紙と繪筆とを持ち出して、やさしい七草を寫生しようとしました。

ひよいと氣がつくと、女郎花の花だけがなくなつてゐます。

美代子はびつくりしまして、

『おや〳〵、女郎花がないわ。誰が拔いて行つたのか知らん。をかしいわね。をかしいわね』

と、ひとり言を言ひながら、七草の鉢の近所を見廻して見ますと、七草の鉢から餘り遠くはないところへ生ねてゐる紫陽花の根元に女郎花がしよんぼり咲いてゐるではありませんか。

美代子は、おや、おやと、不思議でたまらず

『まあ、まあ、誰があんなところへ持つて行つて植ゑたのだらう』

と言ひますと、その聲を聞いて女郎花は

『私がひとりで、此處へ逃げて來て植わつたのでございますよ』

と申しました。美代子は二度びつくりして

『わッ、お前がひとりで？なぜ又鉢から逃げ出したの？』

『だつてねお孃樣、七草の中でお前だけが女だ、女はおしやべりで、おしやべりで、うるさくつてしようがないから、鉢の中に一緒にゐてはいけない。何處かへ行つてひとりでお咲きなさいつて、みんなしてやかましく言ていぢめるんですもの。それでねお孃樣、私とう〳〵逃げ出して、此處にかうして、たつたひとりで咲いてゐるのでございます』

女郎花はかう言つて、悲しくなつたものを見ねて、しく〳〵と泣き出しました。美代子は可哀さうで、可哀さうでたまらなくなり、お縁から下りて女郎花のそばへまゐりまして

『あらまあ、さうなの、それは氣の毒ね。それでは私がもうお前をいぢめないやうに、みんなに頼んで上げるわ。』

と申しますと、

『どうぞ、さうして下さい。七草の一草でありながら、鉢の中にゐられないで、こんなところへひとりでゐるのは、なさけなくて、なさけなくつてしようがありません。』

『さうだらうともさうだらうとも』とやさしくなぐさめて、鉢の中の桔梗や刈萱に

『可哀さうに、女郎花も鉢の中で咲かせておやりよ。お前達は、女郎花なしでは七草ではなくなつてしまふぢやないの。ね、ね、私がお前達の中へ、女郎花を入れといて上げるから、もういぢめてはいけないよ』

と言ひ〳〵、紫陽花の根元から、女郎花を拔て、元通り七草の鉢の中に植ゑてやりました。女郎花は大喜びで、

『お孃樣、難有うございました』

とお禮を申しました。桔梗の花は女郎花に、

『もうあまりおしやべりをするんぢやないよ。うるさくつていけないからね。』

と言ひました。花でも女の字のつく花は、男よりも、おしやべりだと見えますね。

明君道中記

第二百三十三席 田邊南龍口演

松平長七郎は一同の者を伴れまして和歌山を出立いたし、大阪より讃岐の丸龜へ參りますので、所謂金毘羅船といふ乘合船に乘りまして出帆いたしましたが、海上は穩でございまして風もなく疊の上を行くやうである、乘合の者も皆々喜んで自慢話なぞをして居ります、長七郎は艫の方の處で兩人共の話を聞いて笑つて居る、傍の隅に居りました一人の修驗者其處へ出て『修』話を皆さん然うやつて一つ船に乘合するも何かの因緣、君は酒好で船に酔うして酒を酌へて[illegible]ます、皆さんへ一杯上げませう』と強力に持たせて置いた大きな瓢を取寄せましたから。○『それは御修行者有難うございます』酒と聞いては目の無い男一杯頂きませう『修』澤山は上げられません皆さんへ一杯づゝ上げませう』と各々茶呑茶碗へ酌で貰つたやつを飲で居る、修驗者は長七郎の前へ參つて『修』如何でございます、お武家樣召上るなら一ツ差上げませう』長『イヤ俺は折角であるが酒は飲んから』修『デハございますが少々位は』長『少しも飲ない』と宅兵衛宇平治等へ目配せをしたから兩人も辭退をして飲みません、町人共は皆一杯づゝ申受けて飲んだのだが何ういふ加減か一人仆れ二人仆れバタ〳〵其處へ仆れて寢てしまひまする、長七郎は訝しいと思つたから是亦寝た振をして居ると修驗者は皆々の樣子を見て莞爾笑ひ強力に對つて『修』旨く叶つたな『強』何うも兄貴の勸め方が旨いから皆な飲んで船頭まで泥醉つて寢てしまやアがつた『修』此の痺れ藥は能く効くな『強』まめねね内に置つけてしまひませう『修』然うだ合圖をしろ『強』合點でござんす』と何やら合圖をいたすと何時の間にか周圍を取卷て居た五六艘の海賊船、乘つて居りました者が皆此の船へ上つて參り大勢の海賊共が仆れて居る町人を引起して懐中の金を奪ひ取り、或は荷物の類を己れの船へ持込んといたす樣子、睡た振をして居た長七郎、堪ても我慢がならず船中の者へ怪しき酒を飲せ酔仆れたる處を仕事をいたす海賊であつた、宅兵衛宇平治片端より打仆せ』宅『心得ました』と宅兵衛宇平治の兩人は一刀を拔いて片端より海賊共を峯打にいたします、長七郎も同く一刀を引拔き前後左右へ打仆しました、海賊共は是に恐れソレ逃げろと己れの船へ飛び移つて逃げてしまう、長七郎は此の態を見て 長『逃げる者は逃してしまへ長追をいたすな』と仰せられて其處へ坐した處へ艫の方から老人が十七八の娘を伴れて其處へ出て參り長七郎の前へ手を突へ 老『御武家樣貴下のお蔭で私共親子の者は助りました、有難く御禮を申し上げます』長『オー老人共方も船に乘つて居つたのか』老『ハイ』長『怪我がなくて宜かつた』老『皆旦那樣のお蔭でございます、然して旦那樣は此の船へ召して何れへお出になりますので』長『讃岐の金毘羅へ參詣をいたさうと存じて大阪より此の船に乘つたのである、老人は何れへ參るのだ』老『私共は此の小豆島の郷士神掛郷太夫と申す者でございます、此女は手前の娘で采女と申します者で』小豆島は讃岐國と淡路の間にある島で東西四里十五丁南北三里十四丁、[illegible]に船を著けるので其の外[illegible]に船を著けることが出來ません、島の中央に星ケ城山[illegible]丸山なぞといふ處がある、紅葉の名所でございます、老『如何でございます旦那樣此の小豆島の紅葉と云へば名所の一ツ、何れ此の船は小豆島へ著けます故船より上つて紅葉を御見物なされては如何でございますか』と勸めまする

△下旬… 同十四日 同十五日 同十六日 同十七日 同十八日

本社…告者には二十錢…を呈す（但…何號と明記…宛名は京城日報社新局…）

報 [illegible]

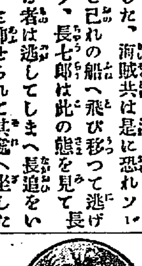
八月十四日 舊六月廿六日 戊子 本命 六白 乾 亥 友引

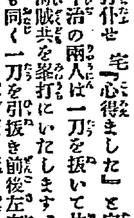
△九紫 …△八白 …△七赤 …△六白 … [illegible]

わきがを 人から きらわれる

△根元まで今スグ全治なさい 申込めば直に説明書無代進呈す

音尾博士先生發見





東京府下淀橋町柏木百貳拾番地 東京博愛藥院

寫眞出張撮影 寫眞銅版、亞鉛版 京城日報社寫眞製版部

天下一品 仁川本町三丁目 電話一〇九番

富の道しるべ 村上唯吉共著 山縣五十雄 定價五十錢 京城太平通京城日報社代理部

演藝案内

京城座 電話五七八番

大正館 電話八七三

有樂館

黄金館 電話二六三七・二六六六

浪花館 明治町 電話二六〇 東京落語雷門助六一行

蹶然として柏村博士のヘルプは立てり

夏!

悪疫流行の季節に入る!

我は曰ふ
最後の勝利は眞價にあり

我は曰ふ賣藥は廣告を服ませるものにあらず。能書を賣るものにあらず。我は敢て自己を語らずと雖も。下痢腹痛の適應藥として我に優るものなしとは滿天下數百萬の愛用者よりの聲なり

ヘルプ効能

●食過●食傷●消化不良●時候あたり●水あたり●寢冷等より起る
▲下痢腹痛▲吐瀉▲疫痢
▲腸瓦斯を止め
▲腸加答兒
▲胃加答兒を治す。

定價 貳拾錢、參拾錢
旅行用小形 五拾錢
徳用 壹圓 貳圓五拾錢

ヘルプといふ藥劑

ヘルプは前宮内省侍醫柏村博士の創製せる、腸胃新藥にして、下痢症に對して從來の賣藥が單純なる收斂劑に止まり、殺菌の用意なきに鑑みてこの缺點を考慮配劑せる、他に斷じて比類なき下痢止腸胃藥である。本劑の高貴なる原料と而して精妙なる調合法に於ける幾多の苦心研鑽は茲に敢て喋々せずと雖も、服用者の驚嘆感謝に依りてその卓絶せる効驗の眞價は社會に認められ賣行は日々に激増して止まぬのである。故に我がヘルプは例の賣藥者流の誇張辭を用ひて購賣を強ふるものではない、時季はヘルプを是非とも座右に備ふべき季節に入つたことを、只に自覺して戴き度いのみである。

昨年の夏より秋は

想ひ起す昨年の夏より秋にかけては。全國到る處惡疫猖獗騒ぎで大變であつた。醫術の進歩、衛生設備の發達せる大正の今日と雖も猛烈なる流行病の蔓延ばかりは防止の途がなく、惜可貴重なる人命は病魔の犧牲として續々と斃れたのであつた。どうか今年の夏は各自が個人衛生をよく守つて昨年の慘害を繰り返さぬように注意すべきである。その筋からの布達で、生水を呑むな未熟の果物を喰べるな、寢冷をするなと、煩く謂はれてから氣をつけるやうなことでは甚だこまる。何人と雖も個人衛生に注意するのは誰のためでもなく皆自己自身のためである。

本舖
東京日本橋本銀町三丁目
津村敬天堂
電話本局一〇九七番
振替東京八六四番

ヘルプは全國藥店に販賣す

京城日報
第三版
八月十三日
（夕刊と合せて八頁）
本紙定價 一部金二錢五厘 一ヶ月金五十五錢 郵税一ヶ月金拾五錢 前金に限り三ヶ月分金二圓 六ヶ月分四圓 ▲郵券代用二割增
廣告料 ▲五號活字十六字詰壹行金八拾錢 ▲二號活字 ▲三號活字 [illegible]
發行兼編輯人 奥田直毅 印刷人 小川三之介
發行所 京城太平通一丁目 合資會社 京城日報社
電話 [illegible]

ード氏の忘備錄を轉載せるが其中に[illegible]れるもの丶中下の如英國皇帝は普魯西へ致往訪中獨、墺、[illegible]のあり曰く[illegible]ー親王の倫四國の間に[illegible]に英國が擾亂の[illegible]提議せるが如く諷刺し又[illegible]が露國軍隊動員の報を聞き驚愕せる當時は總ての事[illegible]解決の途にふたりしなり[illegible]ろべしと申出でられしは貴下が英國の眞意を諒解せざるに據りて話されしは之を事實と認め居れり又佛國が[illegible]意を通じ來れりとの理由を以て獨逸は作戰上白耳義を犯さゞるべからずと聲明せるに際し時の英國[illegible]相との陳述が屢々矛盾し居れるを說き居れり右獨逸皇帝の書翰は伯林城に於てゼラード氏の謁見の節獨逸皇[illegible]巴里に入る事ならんと漏てあげたるに帝は答へて英國人は全形勢を變化せしめ彼等は執拗な國民なり若し[illegible]

神戸監獄に服役中の八年囚岩本榮吉（二七）は十二日破獄逃走して行衞不明

露國の革命

三、火の手益々揚る

露曆二月二十六日に及んで政府は最早政治的手段を取らねばならなくなつた。益々暴動は政治的になつた。此時政府の官報には當時の模樣を斯う記載してある。

露曆二月二十六日政府は勅令を以て上下兩院の停會を命じた。下院は其命令に從はず、市民は到る處に警官と衝突して流血の慘狀を呈し、軍隊は市民の行動を應援するに至つた。下院議長が戰線に在る露帝に對して露都形勢重大なるの故を以て新政府組織の必要を電奏したのは此日であつた。

二十七日革命側に加擔した軍隊は約二萬五千と注せられた。下院議長は再び露帝に對して『祖國及び皇帝の運命を決する最後の時期なり』との意味を電奏した。露帝よりは何の御返電も無かつた。電奏は二通共近侍に遮られて御手許に屆かなかつたのだといふことは後から知られた。下院は應急手段として臨時執行委員會を組織し議員中より十二名の委員を選出し、市内の秩序恢復と新政府の組織に當らしめた。此間に暴動は益々擴大されて武器庫、砲兵本部、ペトロポーロスク要塞を占領し、ガリツィン公爵プロトポポフ內相シチエグロウキトフ上院議長シチュルメル前首相等の大臣顯官を捕縛し、監獄を襲ひ囚徒を釋放し、警察署を破壞した。

二十八日上院委員會は遂に左の如き電報を露帝に奉つた。

市內各所の暴動は益々猖獗を極め兵士は暴徒に加擔し形勢甚だ不穩なり此際政府は何等の權威なく國民の信望地に墜ちたり外敵に對する作戰上恐る可き影響あらんと思考す。冀くば陛下即刻國民の信賴すべき新內閣を組織し國家の急を救はせ給はんことを若し猶豫せば一大事變眼前に迫れり

此日露都の衞戍兵は殆ど全部下院の處置に服從すべきを宣誓し、西比利亞二個聯隊、ツアルスコイセロ駐屯軍も馳せ參じて革命側に加擔した。是に於て新に露都衞戍軍を組織し下院議員參謀課大佐エンゲリガルト氏を司令官に選定した。斯くて漸く臨時執行委員會と軍隊との協力によりて市內の秩序は平常に復し、鐵道、電話、鐵道も復舊した。中學生以上の學生を以て民團を組織せしめ秩序維持の任に當らしめたのは此時からである

三月一日キリル、ウラヂーミロウヰチ大公の率ふる近衞水兵團を始めとして革命側に加擔し下院に來集する軍隊陸續として相踵ぐ。冬宮が革命側に占領せられたるは此日である。此夜一名の伍長と二名の水兵は前陸相スホムリーノフ將軍を下院に引致して來たのでクレンスキー氏は萬一兵卒等が私刑を加へんことを慮り彼等を訓諭した。此外前首相ゴレムイキン氏前內相マクラーコフ氏なども下院に引致された。漸て行政權は全部執行委員會の手に收められ、各省の事務を分擔整理する爲め下院議員中より特別コンミサールなるものが組織された。於是暴動も略ぼ下火となつたが未だ市民の生命財產の安固は期し難かつた。そこで衞戍司令官の名に於てニコラエヴスキー停車場に兵卒及び群集の暴行を嚴禁する命令を掲示した。同時に外敵に備ふる必要上兵卒と民の一致團結と食料問題の解決と戰線に對する食糧補充に全力を傾注することにした。更に數名の議員を以て地方及び外國に對し革命の眞相と秩序恢復とを報道するの任に膺らしめ、同時に各新聞に其經過を掲載せしめた。

此所まで官報を讀んで來ると露都は露帝の不在中に暴動を起して政府を顚覆し大臣顯官を拘禁し軍隊を以て要所々々を占領し行政權は臨時執行委員會に收めて了つたといふことになる。食料の缺乏より漫然爆發したる群集の暴動が動機となつて、縱し有力なる某國の革命の火に油を注ぎたるあるにせよ、總べての機關を具備したる一國の政府が手もなく顚覆せられたのである。遂に露帝は此時御氣の毒ながら取るべき途は唯一條より外なかつた。其一條は退位であつた。

放浪漫記

大谷光瑞

七月三日セレベス島メナドに於て

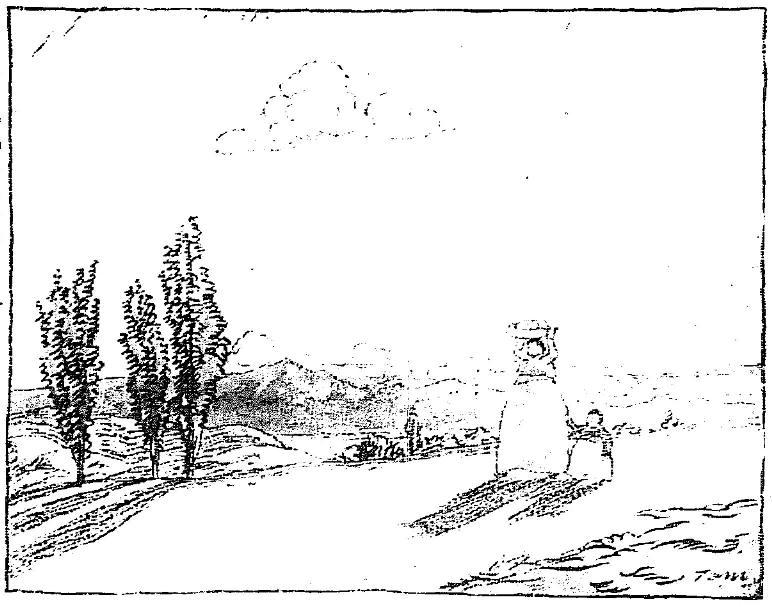
（承前）バンドンを發し、高原を縱斷し、チトラレンカに至り、高原を去つて山川紛糾の中を行く。高度は依然減せざるも、線路は高原上の直線に比し著しく迂回せり。やゝ下りてチバツに至り、六〇〇メートルを過ぐ。此地より一線を派し、ガルーに至る。ガルーは海拔七〇〇米突にして、チヤバ中西部に於ける第一の遊覽地とす。噴火口あり、温泉あり、數日の淸遊に便なり。小生は時間なきを以て行かず。此地は高山を廻せるを以て雨量やゝ多し。二千二百三十八ミリメートルを算し降雨日數百五十四日を過ぐ。チバツより更に下り、バンヂヤルに至り、平原に降下す。此地海拔四十メートルに過ぎず。此線路は嶄にプルワカルタよりバンドンに至ると同じく、急勾配にして五十分一の外處々四十分一を加ふ。故に機關車又は同種を用ふ。唯此地に於ては、マレー式の外是と殆んど等しき『一〇―一〇』のタンクエンジンを用ふ。此型は他に於ては多く見ざる所なりとす。平原に下るや、車行頗る快速、『一〇―一〇』の大機關車を用ふ。一般に機關車は獨逸、蘭本國なれども、まゝ瑞西アメリカ製あり。此よりヂヤバの南岸に沿ふを以て、此季節の南東信風は、印度洋上の水蒸氣を吹送するを以て、降雨多し。午後七時半延著して、降雨中ジヨクジヤに著す。ジヨクジヤは小土侯の自治州の首府にして、歐洲人の住居せる地方は、街衢亦整然たり。此地より群島第一の佛跡のボルボドールに至る。此地在留の邦人小生の爲め東道の勞を取り、臺灣人李氏は自動車を供せらる。實に感謝に堪へず。早朝出發、一時半疾行著す。遺跡は小丘の上に在り、實に巨大にして驚くに堪へたり、基礎は方形にして、九層を重ね、上に塔あり、蓋しスツパの類なり、唯覆鉢の勢を爲さず。故に印度古代の建築せるものと觀を異にせり。然れども『ベシヤワル』に於て發掘せるカニシカ大王のスツパの遺跡は方形にして『無憂王』の制と異にせり。然れども今日見る所は、只基礎のみなるを以て、上部は果して覆鉢を有するや或は頂上にて方形なりしや知り難し、唯玄奘三藏の記す所によるに必ずしも全く覆鉢のみならざるが如し、然れば此制亦一軌軸を出せるならんか。

涼榻詩話（三）

天彭

△一槐南は、東京大學の講座で詩經を講じたり、また杜少陵や韓昌黎の詩を講じたりして、晩年に至るに及んでは、ますく杜、韓の詩を門下の人に授けたやうであるが、我等の見るところでは、槐南の詩は唐宋に遡つたものではなくして、結局淸詩の圈套を脱せぬもので、その蒼涼にして渾灝なるところは、藏園（淸人）の詩風から來たのである、即ち藏園を立脚點として、力に任せ才に任せて縱横に押捲したのではあるまいか。またその詩餘を讀んで見ると、全く北調で、藏園の鐵綽詞を讀むが如くである。後には吳汝綸の勸告によつて、黃山谷（宋人）を加味するやうになつたが、それは槐南の本色ではないのである。如上の次第であるから、その門下の人々は、悉く藏園と前後した乾隆、嘉慶の詩風をねらつたのである。見られよその高足たる野口寧齋は藏園より出で、大久保湘南は吳穀人（淸人）より出たではないか。要するに星社は乾隆末年、嘉慶の初年の詩風をねらつた新運動で我が詩界に於ける純然たる性靈派の出現である。

△槐南の歿後、この系統の大立者は高野竹隱である。竹隱は槐南の門下にあつて獨立した人ではないが、全く槐南の行き方を行く人で、學殖が豐かで、しかもその才力が高く、往々にして槐南を凌ぐこと一等と思はれる節がないではない。詩風は浙派から出で、思想は病樹（淸人）に似た點が多いけれど、されど樹のやうに辭字や辭典を好んで使はぬから宜い。それに天性が多才多能であるから、いづれの時代の詩を眞似ても、みな能く出來るには、世人の貴賞するところである。この人は目下隨園（淸人）を中心として一機軸を出さうとしつゝある。將來の漢詩界は、この人の影響を受けることが蓋し多いであらう。



◇雨後 ——光熙門外にて—— 石田富造筆

誰（35）

布施生譯

此時一しく二階へ上つてきたのは例の門番の老爺で大きな手紙を一通後生大事に擁へながら『旦那樣、私飛んだ事を致しましたと、眞平御免下さいませ、實は先刻使が參りまして之を置いて行きました、私、先刻は旦那樣のお顏を見た嬉しさについ忘れて、はあ』とく〳〵と辯解するのを程よく接遇つて去らせてから老人は其手紙を鈴富に渡して封を切らせた、封を切ると礙然と落ちたのは十圓札で三四千圓はあらうと思はれる紙幣束である、訝りながら更に手紙を開いてみると書物か何かを切抜いた活字を一個〳〵手際よく糊貼にして『鈴富君、君を思ふて居る友人からの贈物だ、輕少ながら納めてくれたまへ、とにかく早く國を出たまへ、君はまだ一人だ、前途はこれからだ、世間の人は君に脊中を向けやうが僕一人は大丈夫、どんな事があつても君の味方だ、之は吳々も覺ねておいて吳れたまへ。』

君は讀終ると手紙を叩きつけて『ねゝ何奴も此奴も寄つて集つて己を國から追出さうと騷つて居やがるんか。』

老人は之を見て滿足げに『やつと君にも分つたと見わるね、御覽、君に巴里に居て貰つては何時までも安心出來ない人が有る次第ぢや。』『そりや一體誰でしやう、誰が此樣に金なんか贈つて寄送したんでしやう。』『それが分れば例の盜賊も其場で分りますわい、しかし之で。』と老人は今の手紙を手に取りながら『今迄は疑に過ぎなかつた事が大分明斷分つてきましたわい、此樣な良い證據が出たからには早速之を利用しましやうや、先づ門番から取懸らう。』さう言つて門番の老爺を呼寄せた、門番は何かと思つて恐々やつて來ると老人は儼とした口調で『老爺、此手紙を屆けに來たのは誰だい。』『使の者が持て參りましたんで、はい。』『使のを知つた使だつたか』『へい〳〵、存じて居りますとも、山手町の町角に何時も立つてる浮浪者で、はい』『連れて來なさい。』門番が出てゆくと、老人は今來た紙幣を机の上に並べて一枚々々の番號を自分の手帳に控へた番號と照合はせてゐたが、軈て鈴富の方を振向いて『こりや盜賊が寄送したものぢや無いわい、尤も盜賊の奴用心したのかは知らんが兎に角此紙幣の番號は盜られた紙幣の番號とは違つてゐる。』鈴富は呆れた顏をして『ですか。』『何、ですかも何も云ふ事は無いよ、私の方には盜まれた紙幣番號の控があるんだから。』『ねゝ、其番號は私も知らなかつたのに、如何して貴方が。』鈴富の驚くのを老人は事も無げに『なあに、中央銀行で聞いて來ましたのぢや。彼處は感心に整然と番號の控がとつてありました。』と言つて聞かせたが此時礙と考へついた事があつたと見え、吾れを忘れた老人は傍に鈴富が居るのも構はず獨語して『うむ、さうだ、此金は金を盜つた奴が寄送したのぢや無い、あの時立會つた奴が寄送したんだ、此奴は今ぢや後悔してゐるんだ、いや、あの時も最早大分後悔して相棒が金を出すのを抑止やうとしたんだつた、それは兎に角、此奴は男でなくて女かな、手紙の樣子はどうも左樣らしく思はれる、君を思ふてゐると云つたり、脊中を向けると云ふやうな文句は女でなくては使ひきれない文句だからな。』鈴富は思はず聲をかけて『違ひますよ、御老人、女は此事件に關係御座いませんよ。』

最新刊
◎朝鮮畜產例規 吉田雄次郎 七〇
◎王陽明研究 [illegible] 一、〇〇
◎新撰書翰大辭典 淸野知三郎 九五
◎實驗果樹園藝 上 四、〇〇
◎歌集白梅集 若山牧水 若山喜志子 七五
◎[illegible]講評 八五
天然生活法
◎俗話 一、〇〇
◎滿蒙現勢圖 一、六五
◎日鮮會話 警察用語 五五
◎學生及青年の修養と作文軌範 六五
◎候文雄書 一、二〇
進むべき道
◎安價生活の實驗 七〇
◎栽桑十二ヶ月 五〇
◎朝鮮語法及會話書 二三
◎舊幕府御秘錄 八五
大阪屋號書店

京日案內
普通五十錢一回前金 番外一回前金
▲市內及市外は番外の廣告は前金 ▲六圓以上の御申込は特に割引 ▲御申込の節は必ず御名記入なき

▲有給男女記者及社員採用本人履歷書携帶委細面談 魁新聞第三帝國社 京城吉野町一の二七番 電二七七
◎貸家 京城明治町二の六三 場所花園町日本建一戶坪數九十坪 左記へ來談 河原英之吉 413
◎外交員募集 學の男女でもよし其日より有給 南米倉町交番所前 藤井 409
◎讓渡店 市內一等場所希望者は京城旭町一管谷方電話六七三番 又は本町二丁目菅本商店へ御來談ありたし 412
◎十地讓渡 場所櫻井町一丁目 大和町 三千八坪 價六圓七十錢 坪 姓名 [illegible]
最信用ある 古本と古樂器店 本町三 電二五二七 振 ツボヤ 392
◎ほねつぎ うちみ くじき 一切の治療御依賴に應ず 明治町 柔術道場 342
京城春川間 乘合自働車 賃金片道四圓 ◎京城發前八時 京城水標橋通り 電話二一三八番 ◎春川發前八時 春川自働車商會 松川壽男 360
店員入用 十七八歲位希望者本人來談 本町 大阪屋號書店
外勤社員採用 年齡卅歲以上の者にし大の自信ある紳士 京城南大門通二丁目外交 大同生命 京城支部 383
急告 店員入用 多少算筆の出來る者二名外歐名 但市內に保證人を要す 仁川新町 津田兄弟屋 384
恩給年金立替 短期無保險 利子極安即時取引 京城若草町一五 電話二三九一番 （金光教裏手） 國江商會 403
鑛物定量分析 本町二丁目 明治町二七六 江戶川横入 電話二七七一番 田部分析所 411

近時の戰爭
參謀總長上原勇作閣下題辭
陸軍大臣大島健一閣下題辭
陸軍一等主計山田久太郎著
新刊 四六版並製 定價五十錢 郵稅金六錢
開闢以來幾千年、世界の歷史は殆と戰爭を以て終始すと云ふも妨けず。國家の對立と與に、人類の生存と共に、戰爭は到底防遏す可からざると共に亦た之を豫知することも到底不可能なり。大正三年以來繼續せる歐洲大戰の如き、誰か此事あるを豫知せんや。されば世界列國が平和の日に於て戰備に汲々たるもの固より其所也。本書は戰爭の本義、戰爭發生の原因、戰爭の種別、戰敗の原因等に就て、著者が專門的知識を傾注して論したるもの。一般國民に對して戰爭に關する知識と興味とを與ふるに於て餘りあるのみならず、特に軍事專門の立場より見て我が列國の情勢、日本の現狀とを對照し、世界的大動亂の今日、我が六千萬同胞の警醒奮起を促して止ます、一讀すべき要書也
戰爭に關する唯一の虎の卷
發行所 東京市京橋區日吉町 民友社 振替口座一三一〇〇番
發賣所 京城太平通一丁目 京城日報社代理部 振替京城三〇〇番

テニス用具

▲ピンポン用具▼
價格低廉にして他に無比なる庭球用具は鷄印を措きて他に求むる能はず
京城府南大門通二丁目
堀井謄寫堂京城出張所
電話四〇二番 振替京城一〇五八番

實驗果樹園藝
神奈川縣農事試驗場園藝部長 富樫常治君著 菊判全二冊 精巧圖挿餘 定價 上卷金四圓 小包料廿四錢
（總論）果樹園藝の意義目的現在及將來果樹園の開設管理法並に一般栽培事項を記す。殊に斯界新進の大家菊池農學士が多年の研究になれる果樹の種類及分類遺傳及變異品種改良法等全く從來の成書に見る能はざる最新研究を收錄せり。（各論）廿有餘の各果樹に對し有ゆる栽培事項を記し富樫氏が學理に實地に十有餘年の歲月に得たる最も斬新の事項一讀直に實地に恰適すべき活字。而も最新式活字を以てしたれば上卷のみにて文字上優に一千餘頁の大作たり之れ實に斯學空前の著として斯道研究者に一讀を希ふ所以也

新刊 總論は菊池雄氏の執筆せり 論斯界の七十種頁 菊池秋雄氏執筆
東北帝國大學農科大學助教授農學士 明峰正夫君著 菊判正 全一冊 定價四圓 小包料十八錢
發兌 東京市日本橋區本町 臨十軒店 裳華房 振替東京二五七三 電話本局千七番 大阪屋號

大改增補版 新刊
作物育種學
作物の種子を淘汰選擇して佳良なる新品種を育成する事は一に作物育種學に待たざるべからず。著者之に見る所ありて世人の眼を新品種の育成並に遺傳變異等に注ぐがもの發達漸く多く共進歩しるべきものあり而して學理研究のものあり。斯學の開拓の嚆矢を著けし新を研究即ち本稿を大成せり。論理精深、叙述平明を究めて以て農業界の好指針たり斯學研究の諸賢に作物育種學上最も稀ふの新讀して啓發するところあれ

◎對米利權附與無根

露政府より我外務省へ取消し來る

露國政府は過般來米國に對し西比利亞及び樺太に於ける鑛山採掘權を附與せりなど風說傳へられたるより之れが疑惑を解く爲め露米兩國間に從來何等此の種の交渉ありたる事無く全然無根の旨我外務省へ正式に取消し來れり（東京特電）

◎英軍活躍敵死傷多大

ウエストホーク完全に占領す

ヘーグ元帥の公報に曰く我軍はウエストホークを攻擊して完全に之を占領し且つウエストホーク支隊の殘部をも獲得せりフランク河左岸の戰線に於ける佛軍はビスシユートの東方及び北方に進戰を繼續しつゝありモジル、ブロー方面の我强襲隊は敵の塹壕を爆發して非常なる損害を與へ夥しき死傷を出さしめたり我軍は機關銃に依り敵の猛烈なる逆襲を完全に沮止せり（倫敦電報）

◎英勞働黨代表者派遣

勞働黨會議に於けるストツクホルム國際大會に代表者派遣の件は投票の結果五十五萬票に對する百八十四萬六千票の大多數を以て可決せり（倫敦電報）

◎支那政府借欵條件

支那政府の日、英、佛、露四國銀行團に對する一億元借欵問題は今尙梁財政總長の手許にて研究中なるが大体左の條件にて成立すべく其の上にて一千萬元の前渡ある可き模樣なり（北京特電）

一、一億元中五千萬元を日本にて殘餘は三國にて引受け
一、擔保は鹽稅、年利六分、前渡を控除せる殘額九千萬元は之を四ケ月間に交附す但し据置期限五年間
一、他への流用を許さず

◎張繼氏渡日要件

張繼氏は奉天仇氏同伴十日天洋丸にて香港を發し日本に向へり右に就き氏は南方側の眞情を訴へ日本上下の同情を得んが爲めなりと稱し居れり（廣東特電）

◎米赤十字救護班

遣露米國赤十字社第二回救護班三十八名は來る十四日敦賀發、浦鹽に向ふ豫定なり（東京特電）

◎阿猴油田開掘

海軍が臺灣に有する五箇所の油田中最も有望なる阿猴油田を今回愈々開掘する事とし之が經費三千萬圓を明七年度豫算に計上せり（東京特電）

◎國澤氏東上期

國澤滿鐵理事長は定款改正、鮮鐵委任經營、專任新理事其他臨時總會に關する要務を帶び十四日大連發朝鮮經由上京す可く滯京は約一箇月の豫定なり斯くて歸任の途次鮮鐵視察殘餘の分を全部視察するやも知れず（大連特電）

◎敵船處分案 如何

支那政府の對獨宣戰布告は愈々兩三日中に發表せらるべく同時に支那政府は獨逸人に對し如何なる措置を取るべきや英佛に於けるが如く個人經營の事業に至る迄閉鎖を命じ全然獨逸人の在留を許さゞる方針に出づべきか或は我政府の取れる如く政治的陰謀其他聯合國に危害を及ぼす虞ある人物を取締るに止め

▲個人の事業 迄には干渉せざるの措置に出づべきか未だ是等の點に就ては何等確定せざるものゝ如きも英國の如きは絕對强硬說を稱へつゝあれば何れ支那政府の利害と聯合國の希望とを調和して決定さるゝに至らん去り乍ら結局は支那に於ける獨逸各方面の勢力一掃さるゝに至るべきは明かなる所なり而して列強の間に目下懸案中の問題は捕獲

▲敵船處分案 なるが獨逸船舶にして支那沿岸諸港に遁入せる船舶は處分の結果として當然該船舶は支那政府の捕獲する所となるに至るべしと信ぜらる而して目下支那諸港に遁入せる敵國商船は獨逸汽船十一隻（此噸數二萬七百五十噸）墺船三隻（此噸數九千四百九十一噸）なるが我政府は船腹不足の現狀に鑑み前記捕獲船舶の

▲使用權獲得 に關し先般支那政府に考慮を求めたる事實あれば恐らく使用權は我國に於て獲得するに至らんと觀測さるゝも英佛兩國に於ても支那政府に對し船舶窮乏の事實を以て其使用權獲得を交渉しつゝあり就中英國の如きは前記捕獲船を對獨軍事上の直接目的に使用する意味を以て之れが使用權獲得を要求せるものなりとの事なれば英國の要求は全然之を

▲拒絶し難き 事情あり從つて愈支那政府が宣戰布告後捕獲船處分問題の最後解決を見る迄には尙ほ幾多の時日を要すべく支那政府にては目下其處分方法につき專ら攻究中なりと云ふ

觀瀾亭雜俎

蘇峰生

○名は實の賓也と申せども、今日の世の中、看板のみにては、浮かと安心出來兼ぬる者多し

○世界大戰爭開始以來、其の戰爭に關する著作、小冊子、論說の類は、到底計上の限りにあらず。姑らく記者の接觸したるものゝみを擧ぐるも、二打以上を數ふ。其中には協商國側の立場より、若しくは同盟國側の立場より、何れも崇論、高議、鹿爪らしき、尤もらしき言說少からず。されど要するに大義名分を、自國、若しくは味方側に專らにせんとする、一種の排外論に過ぎず。

○但だ滔々たる群書中に於て、聊か公平に庶幾きは、チツクキンソンの『歐洲の無政府』の一書のみ。此書固より英人の著にして、開戰の責任を擧げて獨逸に歸するも、されど其の此に到れる因由に就ては、別に中正なる見解を有するが如し。

○『英獨相ひ理會する能はず、何となれば相互の信用なければ也。信用ある能はず、何となれば相互の恐怖心あれば也。相互の恐怖心ある所以は何ぞや、蓋し三國同盟は武裝して屹然三國協商と對立したれば也。果して然らば其の咎焉くに在る、英國乎、否、獨逸乎、否。要するに歐洲從來の行き掛りと、其の仕組に歸す可きのみ』と。此の如く論じ來らば、何人も首肯せざる能はざる可し。

◎慶北の貢物紙

前途頗る有望なるべし

慶尙北道產業中製紙事業は地方に於ける副業として最も重要なる地位を占め目下年額四十數萬圓の產出力を有す就中貢物紙は年々十數萬圓を產出し兩三年前より滿洲方面に輸出されて日を逐ふて其の聲價の向上しつゝある折柄本年の如き既に約三萬圓の輸出額を示せりといふ

▲斯の如く貢物紙は貿易品として前途頗る有望なるを以て慶尙北道に在りては一層之れが品質の改良と販路の擴張に盡瘁し居たるが過般來更に改良貢物紙を試製したるに結果極めて良好にして在來の貢物紙に比し紙面の光澤優れ厚薄を統一し得たるのみならず幾分か生產費を節約したる等幾多の特徵を認められたるものゝ如し

▲されば目下慶北道當局に於ては右改良貢物紙の抄造に日も尙ほ足らざる有樣なるが一方永川郡邑內貿易商韓文洋行は同行員文明琦をして試みに價額約一萬圓の貢物紙を滿洲方面に輸送し販賣せしむる方針なるが其の結果意の如くんば之れが販路を開拓するに至らば改良貢物紙が慶北に於ける輸移出貿易品として重要視せらるゝも蓋し遠きにあらざるべしと

◎平南私校教育

道當局者談

本道に於ける六月末日現在一般私立學校は五十三校宗教學校百十一校計百六十四校なるが基礎薄弱なるものは著しく近距離にある他の學校と併合して設備と內容の充實を計り居れり又教科目及び教科課程は漸次普通學校高等普通學校女子高等普通學校等の規則に準じて之れを變更し教員は有資格者を採用することに注意し專ら教育の改善に力めつゝあり尙宗教學校に於ても聖經の外修身讃美歌の外普通唱歌を加へたるものも多數あり左に一般狀況を揭ぐれば

（一）程度は總て普通教育をなすものにして初等程度に屬するもの百九十九校中等程度に屬するもの二校初等中等の程度を併置せるもの五十三校なり
（一）職員數は男子五百十八人女子四十五人計五百五十五人にして一校平均三人强生徒十六人强に對し一人の割合なり
（一）生徒在籍數は男子七千二百十七人女子千九百三十三人計九千百五十人にして平均一校の生徒數五十六人弱なりとす而して右の生徒數を本道內朝鮮人戶數一九九八〇に對比すれば二二戶に對し就學者一人の割合とす
（一）本年卒業者は男子八百六十五人女子百四十人計千五人にして卒業後に於て家業に從事するもの四百六十二人官公吏又は銀行會社等に就職するもの四十五人上級學校に入學せるもの四百六十二人內地留學八人其他廿八人なり
（一）教科用圖書は若干の認可圖書を使用するものを除くの外は總て總督府編纂又は檢定圖書を使用せり
（一）經費總額は六萬一千四百三十圓にして一校平均四百二十六圓弱にして其の支辨方法は基本財產及基本金收入一八五七六圓設立者出資二二三一五圓授業料二〇八八九圓寄附金及雜收入一〇六六〇圓なり宗教學校にありては其の外教會補助一四八六圓を以て維持しつゝあり

以上を前年同期の狀況に對比すれば學校數二六校教員八七人を減じ生徒數二八八人經費一一八七二圓を增加したり（平壤）

□朝鮮牛と横斷航路

特派員 中島克己

前項横斷航路の沿革に於て記述せし如く本航路に直接間接に其の端緒を開きしは實に我が北鮮牛にして敦賀の官民及び投資家の如き北鮮牛の移入事業を以つて航路開通を敏速ならしむる唯一の手段なりとし之に因つて以つて漸次各種貿易上の進展を期せんとするものなり已に最近牛疫檢疫所の敦賀に設置せらるゝあり又從來敦賀の移入牛は屠殺せざれば他へ搬出の自由を有せざりしが之亦昨年八月以降活牛の儘盛に內地各方面へ搬出する事を得るに至り北鮮牛の敦賀移入は前途益々多望にして進展の域に到るや明なり即ち北鮮牛移入事業は横斷航路の第一著手として研究すべき問題たるや今更絮說を俟たざる所とす故を以つて記者は敦賀方面有力者の調査に由り聊か記述する所あらんとす

▲鮮牛移入の嚆矢 由來北鮮牛の內地移入は大正四年十月敦賀の大資本家大和田氏に由り初めて實現され五年十一月更に其の第二回の移入を見たり然るに第一回移入の當時は活牛の儘販賣する事を得ず敦賀に於て屠肉と爲さゞるべからざりし事とて第二回の移入は活牛の儘販賣の途拓けたるも航海中時化の爲め多數の斃牛を出したるとに依り共に少からざる損失を招きたるは遺憾とする所なり想ふに生牛の移入は牛價の下落する秋冬の候を最も適期とするも此季節は往々海上の危險を伴ふあるを以て之に抗するに足るべき巨船を以つてするは生牛の移入のみを目的とする片貿易の時代に在りては採算上稍々不可能事に屬すべし依つて稽ふるに將來本業の殷盛を期せんと欲せば須らく敦賀をして移出入貿易の中繼地たらしめ米穀其の他雜貨の移入豆類牛皮乾魚麻布等の移入と相俟ち常に船腹を滿すの方策を講ずるに非ざれば生牛の內地移入は失敗に歸する事無きに非ざるべし。即ち北鮮牛を敦賀へ移入する事業をして現今及び將來に於て有利且つ安全なる事業たらしめんと欲せば先づ四季に於ける日本海横斷航路の難易、移出地と移入地に於ける畜牛市價差額の多少、牛疫其の他の疫病或は負傷等の損失程度、事業經營者の資力及び技術其の他需要地との關係等を極めて詳細に調査攻究するの必要ありと信ず記者が可及的各方面の諸關係に就き調査したる結果に由れば大要左の如き結論を得たり（未完）

◎平安宗教界現勢

平安南道に於ける本年七月十五日現在各宗教信徒別は神道內地人二千七百四十九名外國人一一名朝鮮人二百一七名計二千九百七十七名なるが神道宗派は天理教神理教金光教大社教にして內最も信徒數の多きは金光教の一千四百四名なりとす佛教信徒は內地人七千九十八名朝鮮人二百六十二人計七千三百六十人にして宗派別は淨土宗日蓮宗曹洞宗眞宗本願寺派眞宗山元派眞宗大谷派眞言宗各派聯合臨濟宗妙心寺派たり其の內最も信徒の多きは本願寺派の三千六百五十八人なり基督教信者は內地人三百四十九人朝鮮人三萬四千七百五十三人外國人二十五人計三萬五千百二十七人にして宗派は日本基督教會日本メソデスト教會日本組合基督教會天主公教朝鮮耶蘇教長老會美監理教會派第七日安息日耶蘇再臨教なるが內信徒を最も多く抱擁せるは長老派にて其の信者數は二萬二千百三十なり朝鮮佛教は平壤府永明寺一箇寺にして所屬信徒極めて少數なり因に昨年同期に比し神道に於ては六百六十九人の信徒を增加し佛教にありては一千六百五十七人を增加し基督教にありては一千五百三十三を減少したり（平壤）

◎木浦二銀行成績

木浦三

銀行七月中の營業成績を聞くに預金額は百九十萬六千二百七十九圓拂出高百六十三萬四千零八十八圓月末現在百三十五萬八千九百四十六圓にして昨年に比し月末現在は十萬一千二百圓を增し貸金は貸出六十八萬零四百十一圓回收七十五萬二千七百五十一圓月末現在八十五萬九千百九十六圓昨年同期に比し月末現在十四萬三千餘圓を增し手形は仕向高四十六萬二千二百九十六圓被仕向五十八萬九千三百八十八圓昨年に比し仕向は十六萬一千六百餘圓を被仕向は二十九萬零九百餘圓を何れも增加したり

◎大田各銀行帳尻

渼湖農工銀行大田支店に於て調査したる七月中の經濟狀況を聞くに前月は穀物及び繭絲布其他一般の騰貴せしに拘はらず農繁期に入りたる事とて貨物の移動尠く大小麥の如き作柄不良なりし爲め貨物稀にして一般の商況極めて閑散に金融又緩漫なりき金利は內地資金の潤澤なりし餘波を受け僅大田地方も一般に低落の傾きを呈したる當支店の帳尻左の如し

[illegible]

又た漢城銀行大田支店の帳尻如左

[illegible]

◎宮尾長官通過

新任關東都督府民政長官宮尾舜治氏は赴任の途十三日午前八時五十分南大門驛著同九時十分發列車にて北行赴任すべし

◎川上理事出發期

川上東拓理事は社務を帶び十三日午後七時五十分發列車にて東上の筈なるが或は都合により十四日夜行となるやも知れず

人事消息

▲小田村學務局長 金剛山探勝中の處十二日午後入京妙心寺へ
▲佐藤諭一氏（釜山府土木局長） 十二日元山へ
▲井手壽彦氏（法學士） 十二日退京
▲西崎源一郎氏（東京貿易商） 十二日夜退京
▲中村留日氏（明治生命保險京城出張所長） 十二日南山町に下宿せり
▲渡尾遊郎氏（黃海道第一部長） 巴城館に滯在中の所十二日夜內地へ歸省
▲小杉盤五郎氏（平壤無煙炭合資社員） 十二日夜退京銀山へ

■南言北語■

段政府の借金政策の成功は南方民黨をして垂涎禁ずる能はざらしむるものがあらう▲銀貨の音を聞いて梁士詒なども早速香港から飛び出したとやら飛び出すとやら▲今後も幾多の梁士詒も現はれ來るべく支那で黃金萬能主義の發露を怪しむのは野暮だ▲イヤ支那許りでもないらしいテ▲段君は此の呼吸をチヤーンと呑み込んで居るから好い事をやる▲對獨宣戰後に沒收した獨船を競賣して濡手に粟の計畫もある相な▲背水の陣頭に立つだけ思ひ置く事の無い樣大にやるべし▲殊に船腹不足の此頃だから大分儲かるのだろう而うすると支那政府も忽ち成金のお仲間入りが出來る譯だ結構なこと▲一時は大分景氣が好かり相であつた南方派も獨探の腰押しが現れて來ると薩つ張り以前にない▲今度は陸榮廷君を代行總統に押し立て一と芝居やろうとして居るらしいが▲天無二日、民無二王と孔子樣も云つて御座るではないか▲馮國璋君が最早堂々と支那大總統の位にある以上まさか陸君も承知はすまい▲支那の當今政治家中で群を拔いて居るのは何と云つても曹汝霖君と梁啓超君だらう▲梁君が男性的策士であれば曹君は女性的策士である▲其の外人操縱の怪腕に至つては眞に敬服の外はない▲大抵の外交官でもコロリと參らせられる▲徐世昌老人や陸宗輿君は野心慾望滿々で例の跳動でも間際に寢返りを打たれて蹴落されたものだと某支那通の歎片

恐るべき「腦神經衰弱症は」

■僅かハガキ一本で癒る

◎氣のついた頃は遲い
なあに其中に癒るだらうと輕い頭痛を放つて置のは誠に危險い話である文明病——腦神經衰弱は誰も氣がつかない中に漸々人を襲はうと迫つて來る『是は不可い』と考へ著いた頃は既も正眞正銘の神經衰弱に捉はれて終つて居る道底恐ろしくも亦哀れな病氣が他にあらうか！

◎處世術の指南車
人が生きて居る間は怎麼富豪でも又は乞食でも腦の働きを失くする事は出來ない。道は足で步み行くが社會は腦で進まねばならぬ苦辛も快樂も神經の作用が主宰するので少しでも神經に故障が來たら身體全體の機能が傷められる譯である世の中を勇ましく立派に起つて行く唯一つの法は天から享けた腦を大切に守り處世術に誤りのない樣にするのが何よりの得策である。

◎恐ろしい腦神經衰弱
大魔王サタンの毒手よりも恐ろしい腦神經衰弱症（婦人にはヒステリー）は人が知らない中に冷酷い手を差展るそうすると其人は第一不精になつて葉書一枚書くのも億劫になり其癖物事に焦り出して儘にならないから懊惱すると夜は眠ず頭がシク/\痛かと思うと眩暈がして耳が遠鳴をすると云ふ忌な氣分に捕はれて是から精神に順穩を缺く段取となり初る

◎哀なる落伍者となる
自分の頭を信用する事が出來なくなるのだから自然決斷力自信力記憶力を亡して廣い世の中に自分ばかり取遺された樣な哀な氣持になつて物を言ふのも厭になりブラ/\して閑に憂鬱症に陷つて畢のである自信の決斷の三つは人世の最も大切な武器であるが是が無くて何になる噫社會の落伍者生存競爭の劣敗者として悲慘なる運命に泣く身の上となるのである

◎最良藥物的療法
人間の値打を失して終ふ腦神經衰弱は年々殖えて行く文明病であるが何とかせねば國民の力が亡びる譯で其を憂ひ醫學士常持爲治氏は健腦補神の藥に畢世の努力を吝まなかつた而して良藥レーベンの創製を齎したのである

◎良藥であると云ふ證據
レーベンの効果に就ては既に岡田博士を初めとして專門諸大家陸海軍大醫が口を揃へて推奬され或は有効を證明もして居られる此程レーベンが最善の良藥である事は其藥質から判斷しても能く解る、藥は西洋に進步して居ると云つても强ち日本人に其儘服用して宜いとは云れない日本人は米麥を常食とする國民である

だから常持學士は日本人に適する樣にとレーベンの藥劑を撰物的に採たそして特に腦の營養素——を多量に含ませた且製劑は又錠劑としたのである斯うして出來たレーベンが世の所謂腦病藥と全然異ふのは當然と云はねばならぬ。

◎治療法書を希望者に呈す
凡そ如何なる名藥と云つても飲んで直ちに癒るものではない氣で持つと云ふ位况して神經衰弱の如きは神經其者の病氣であるから尙更持ち方が肝要である即ち心の持方が相俟つて服藥の効果が現れるのである。常持學士は最も此點に留意して療法を著述せられた療法の本を特に平易なスラ/\と讀ます文字で綴れたから新聞が讀る人なら誰でも解る本である患者には宜い指導者であらう

◎迷はず今すぐに
腦病の藥はレーベンばかりではない、隨分他にも澤山ある。然し何れも先許りの名藥が多くつて世の人は實に藥に信用を置かない樣な趨向を持つて來た。之は不正商人が惡い藥の報ひである諸子は欺されてはならぬ自分で怎も腦病だ神經衰弱らしいと氣が付かれたら直ぐ御近所の藥屋へ走つて腦病にはレーベンが一等好い藥と聞て居るが如何と熟く訊て御覽なさい信用ある藥舖で公平な人でさへあれば必ず直にレーベンを出して『非常に好い藥です』と答るでせう

◎レーベンが贈る福音
レーベンが公表せられてから既に百萬人の患者に試みられ何れも顯効の虚言でないと云ふ實驗を得たのである、この光榮ある歷史は益々良藥の光を今まで以上に發揮するは論を俟たない腦病の苦限から逃れ樂しい幸福な生涯に導くのはレーベンが自ら信ずる天職である時や正に炎熱の候、腦の保護には一番大切の季節である男女學生は勿論紳士事務家等あらゆる人は今すぐレーベンに賴つて腦神經の健全を計らなければならないそれには只一本の葉書を奮發して

（常持醫學士の述「腦神經衰弱療法」及び「精神療法」御送り願上候）

の二行の文を東京銀座弓町二三弘濟院中南定太郎氏宛お出しになれば其丈けで此二冊の本を送るのである良藥レーベンが斯うして日本全國は勿論世界の都市に頒布されて恐るべき腦神經衰弱を癒すべく努力である幸は急げとある此病に罹つた人々兆候のある人は遠慮は無用即刻ハガキに申込まれよ。此二冊の本を貰はれて幸は諸子の頭上に戻つて來るに違ない。

◎大田の諸物價 [illegible] て他より一時の彌縫的 [illegible] 籾を仰がんとするも不可能の品彭 [illegible] たるに石油 [illegible] 八十錢を [illegible] 六圓八十錢黃燐 [illegible] 相場は七圓三 [illegible]（大田特電）

◎全南棉作 全南棉作に就き聞くに本年開花期も早きは海南 [illegible]

◎全北後援會 [illegible]

[illegible]膽腹不足等の關係より諸種の貨物は月々昂騰の趨勢を示しつゝあるが品物によりては殆んど品切れの有樣に[illegible]粉赤實車印四圓十五錢同ダイヤー印三圓九十錢砂糖四温十三圓五十錢見當なるも品薄の爲賣買價格は十三圓[illegible]

麥酒一箱十二圓[illegible]

各郡中林野整理の終了せる郡に設置すべき森林組合は本年度内に瑞州、光州、長城、咸平四郡に設置さるゝ豫定にて道に於ては今回[illegible]準則を[illegible]にして組合には組合長[illegible]評議[illegible]事、分區長山監等を置き組合の運用を[illegible]理[illegible](一)種苗の共同購入(二)樹苗圃の設置(三)造林栽及び手入の指導(四)天然稚樹保育の指導(五)竹林の造成及び保護手入の指導(六)林[illegible]

[illegible]七月十九日最も遲きは咸平の八月六日に比較すれば開花齊一にして氣候の適順なりし事を證するに足[illegible]

[illegible]者に於て極力奨勵[illegible]努めたる結果會員數の如きも日を逐て増加し目下有功一特別四一通常一三六賛助[illegible]

[illegible]は[illegible]二通常三〇四賛助一九五合計二千三百八十二名なりと

◆秋山新軍事參議官留別宴 ―十二日夜朝鮮ホテルに於て―

◉名殘盡きせぬ留別宴
三百の祝杯秋山大將の健康を祈りつ

十二日の黄昏頃から長谷川町の朝鮮ホテルには文武官の制服相裝洋裝の貴顯紳士が續々として俥馬車自動車若くは徒歩で集まつた、それは今回駐箚軍司令官から軍事參議官に榮轉した◆秋山陸軍大將の招宴に列する人々である、大將始め副官の諸氏がニコ〳〵して迎ゆる、午後七時頃廣い休憩室は京龍官民の粹を蒐めた來賓で埋まると、助六其他の落語や手踊りの餘興がある、人々は腕を解いて打興じつゝ笑ふ、七時半食堂開始のドラが鳴り渡る、參百近い會衆は夫々設けの席に就く、食卓の上には◆涼しい雪洞や 夏菊などで飾つてある、賑かなピアノが彈せらる、歡談笑語がそこにも此處にも湧く、宴漸く酣なるや秋山大將は起つて『諸君今夕は炎暑のみぎり斯く多數の御來會を得まして厚く御禮申上げます、回顧しますれば小官が軍司令官の任に就いて滿一年、其の間大過なく職責を盡す事の出來たのは偏に閣下並に各位の◆御厚情による ので茲に感謝の意を表します云々』との鄭重簡單な挨拶あり、乾盃の禮が取り交さるゝ、次で山縣政務總監はヤオラ巨軀を起し來賓を代表して謝辭を述べ、續いて大將のために一同とともに盃を擧げ其健康を祝する、復席後少時、模擬店開始となり、大將は自ら先に立つて後庭に出でる、圓丘壇を中心に多數の雪洞と電燈が星のやうに輝やき◆三百近い椅子 と數十の卓が配置されてゐる、一方に設けられた模擬店は氷菓果物、菓子、サンドウヰッチ、コーヒー、握り飯、麥酒其他の飲料が殆んど無限に用意されホテルのボーイが忙しく來客の應接をした、八時半頃になるとポツ〳〵來賓の退出が始り全く散會したのは十時過ぎ◆近來稀な盛宴 であつた因に來賓の主なる向は山縣政務總監、立花古海白水三中將、宇佐美國分小原鈴木松永各長官李徽營侯外朝鮮貴族多數外國領事渡邊法院長國分次官松永川上南東拓理事大田鮮銀理事原田商議會頭横井管理局長高野三井支店長其他總督府及所屬官署の課長並に同格の高等官軍司令部師團司令部駐箚諸隊の大尉以上銀行會社重役並に重なる代表者新聞通信代表者軍司令部出入記者等約三百名に上つた

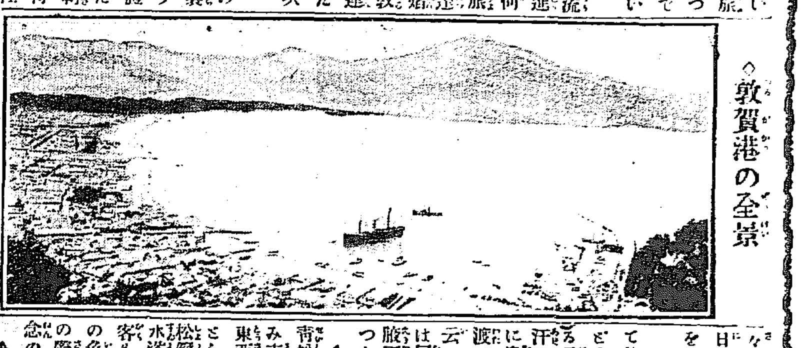
◉局員の轉職頻々

西部鐵道管理局の大恐慌 西部鐵道管理局にては近時民間諸事業勃興し局員にて俸給多き諸會社又は個人經營の商店等へ轉職する者多き爲め辭職者多く大恐慌を來しつゝあり(大阪特電)

日本海横斷 敦賀行(2)
特派員 中島克己

□名勝探り

◆嵐の後の敦賀灣立ち騒ぐ雌波雄波も何となく物狂はしく紺碧の海の面は時折巨蛇の如き紆曲を寄せて居る四邊の連山を顧れば雨後の翠轡滴らむとし名殘りの潮風颯として松籟を傳ふ一行はよろめく足を踏みしめて檢疫を終り税關ランチを驅つて波止場に向ふ凉氣全身に透徹し遥かに眼を放てば清澄の氣は敦賀の巷を瞭然眼前に運ぶ已に港の夏の夜赤い光青い灯は希望に充ちゆるやかに海に流れて行打つ波の音のみ寂寥の響を耳に傳へる。◆平壤丸の碇泊せし敦賀の外港から約三十分にして税關波止場に著く一行は三日一夜の航海から始めて陸の人となり哀別の眼を沖に注げば鴎飛ぶ立石岬の彼方ちぎれちぎれて飛ぶ雲は行衞も知れず消ねて行く税關に少憩官民の出迎へを受け其れより一行は三々伍々夜の敦賀をテクつて約二十町富貴町の具足屋と云ふ旅館に落いた時に十時敦賀の夜はひつそりとして淋しい夏の夜はまだ宵であるのに涼みの客さへ見付からないのは一行を少からず失望させた。◆具足屋と云ふ旅館は敦賀第一流の旅屋であるに拘はらず少しも新進の氣分が見ゆない名にし負ふて如何にも物の具引き裝ふた大名行列式旅宿だと思つた一行は無事彼岸に到達した自祝の意味で大いに乾盃し氣焔稍々昂るに及んだ頃は夜正に酣。敦賀第一著手として瓦の如き女中連の大不平の裡に紙の如き夜具に疲れた體軀を横へたのは誠に御目度い次第である。◆明くれば五日陰暗なりし昨日の空も今は名殘りなく晴れて清澄な裏日本の空氣を通し眩しい日光がキラ〳〵と庭の眉露を五彩に綾取る身體の疲勞はあるけれども内地に歸つた喜びは一同の眉宇に迄見ゆてる朝八時と云ふに一行は二日も前から待つて居て吳れたと云ふ福井縣廳の佐々木理事官其他及び敦賀いや寧ろ裏日本の大資本家大和田氏の案内で佳を運ね名勝探りとしやれ込んだ。◆已に檜のはじけ相な伸に搖られて狭い敦賀の街を紆曲つて行く所はどう見ても田舍者の京巡り。直射する日光を蒸し返す陽炎と滲み出る油汗とに鈍からず弱らされ乍ら行く程に蟲の如き俥の運びも幾つかの橋を渡ると矢張り目的地たる松原公園と云ふに著いた今迄のむさ苦しい街とは何町か隔つて居る丈けに涼風颯と腋下を拂ぬて凉味掬すべきものがあつた。◆松原公園と云ふと名の如く白砂青松北は敦賀灣の蕩搖たる碧水を望み東方敦賀の街に接して居る、白砂青松として茂り颯々の凉氣潮風には海水浴に適すると云ふので夏期納涼の客も又少くないと云ふ松翠蒼鬱千古の色を水に寫す邊明治大帝北陸行幸の際此地の勝景を叡覽させ給ひし記念の碑がある◆此公園の中には東南來迎寺畔に水戸藩士武田耕雲齋等同志三百七十餘人の靈を祀つた松原神社と云ふのがある其の昔の歴史等記憶を辿つて敬意を表した社背には松原神社碑及び土饅がある志士の墳墓にして其の斬首せられた所だと聞く一行は此所から俥を返し反對方面へと辿り敦賀町の北東角金ケ崎宮に參拜した神社は金ケ崎の丘上に在る宮殿及び神苑悉く山に倚り海に臨み四方の風光を一眸の元に收めてる所は實に天下の絶勝だ櫻樹數千本花時の風景を想像しながら再び山に攀ぢ鴎ケ崎月見崎の絶勝を探る附近は一代の忠臣新田義貞同義顯の古戰場で金ケ崎の城趾である◆鴎ケ崎に登ば敦賀灣を眼下に見月見崎と相對して深き入江に擁せられ三方絶壁を以つて海に面してる誠に要害の地であると思つた金ケ崎宮は官幣中社で尊良親王恒良親王を祭祀とし攝社たる絹掛神社には藤原行房、新田義顯、氣比氏治、瓜生保等志士殉難諸將の靈を永久に祭祀してあると謂ふ



◇敦賀港の全景

◉京釜線開通 十二日七時より

京釜線列車不通箇所永同沃川間は全力を盡して復舊工事に努力せし爲め豫定より早く十二日午後七時開通せしを以て永同驛に停りゐたる釜山發北行急行列車は午後七時二十分永同驛を出發し同十一時三十分南大門驛に到着せり從つて同列車積載の内地其他より來りし京城著の郵便物は十三日早朝夫々配達さるべし

◉忠南沃川の水害

十日夜來の豪雨にて忠北沃川驛前にて人家全部浸水し倒壞したるもの十七戸あり死者三名を出し郵便局及び憲兵分隊の廳舎にも浸水の被害あり罹災者約二百名を學校に收容し炊出しをなして救助中なるが光景惨状を極むと(共同特電)

◉小舟十一隻流失

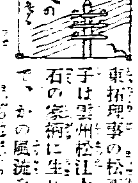
慶尚晋州にて南江の増水十三尺に達し船橋の南側より小舟十一隻流失し漸次減水しつゝありと(共同特電)

◉老人を撲り殺す

咸北鏡城郡朱乙面次約洞車奉孫(三二)は接天洞朴慶七方に睡眠中現金九圓餘を窃取されたるを後に至り同里の池明元(七三)の所爲と知り三月四日明元を捕へて撲りつけたるに同月八日遂に死亡するに至らしめ奉孫は咸興地方法院にて懲役二年の判決となりしを不服とし京城覆審法院に控訴せり

◆野菜が高い 果物は廉くなつた
○今度の雨で西瓜や甜瓜類が澤山現はれた

例年に比べて今年程日用野菜の高い年は無いやうだ、それは此の照り込みで出來が惡いための品不足から來てゐるのだといふ、しかしながら▽一二三日來の 雨で野菜物類は全く蘇生したやうに勢がついて相場をイクラか小弛みを見せた事たらうと食料品市場について聞いて見ると、此の程の雨が野菜類に好影響を與へたるには違ひないが、値が下る程と出盛つてくるのは何時▽少し時日を 經てからださうである、此の頃一般に歡迎される野菜としては小芋、薩摩芋、百合根、長芋などでその他の普通野菜はキャベツ、胡瓜、茄子、枝豆、南瓜等で之等はいづれも朝鮮で出來る、內地から來る物としては▽玉葱位ゐに 過ぎない譯して今年は野菜の値が昨年に比べて五割方高くなつてゐる、野菜の高値を唱へないのは果物類で先月あたりまでは矢張り多く高かつたが今度の雨で西瓜や甜瓜類が非常な勢ひで現れて來たので餘程廉うなつた▽西瓜などは 邪魔になる程出るので一時料理屋などが一個六七圓も出してゐたのが、此の頃では上物で一貫目十四五錢、普通の物で七八錢の安値になつた、甜瓜は梨瓜が百一圓五十錢メロンといふのが一圓で之れは在來種の朝鮮人の食べるものとは違ふ▽今珍らしい ものでは梨だが三貫五百匁百七八十五入一圓二十錢位林檎は七八十顆入一圓二十錢水蜜桃が百顆入一圓三十錢位で之れ等すべての相場は昨年と同じ位であるといふ



東拓理事の松平直平子は雲州松江十八萬石の家柄に生れた人で、かの風流を以て幕末に鳴り響いた松平不昧侯には其の嗣子に當るさうな▲當主の子爵は書畫骨董に對する興味は餘りないやうな事を云ひ、さうした方面の蒐賞人たる事を見合よく謹退してゐるか▲名家丈けに、其の屋敷には古代の名幅が少なからず藏められてあり、子爵の眼識は凡でないとの事▲然し京城の社宅には餘り持つて來てない、と云つた所で、時價數萬圓と稱せらるゝ狩野探幽の筆ばかりでも三幅も其の座敷〳〵にかけられ此道に趣味を持つた訪客の目を驚かしてゐる▲横井京管局長は自ら乃公の話は德利から水を出すやうだ……と云ふだけ、訥々たるものがある▲然し氏は其の訥々たる内に警句を吐けば、又云はんと欲する要領は頗る精選した言句で云ひ盡す▲と、氏に接近してゐる人々は云ふ▲世の中に恐ろしく穴探快論で、それで結局何を云つたか要領を得ない仁がある▲それらに比すれば横井氏は數等上である、三宅雪嶺博士の演説は訥辯の雄辯だと云ふ評もあるが、氏の坐談もそんな所がないでもない……と

廣告

盲目に杖!! 目薬に直治水!! ●スグに効く目薬!!

直治水

特長 ○最新醫學の良藥を配伍す。○裝幀は優美にして携帶に便なり。○効驗は迅速偉大なり。
主効 ○トラホーム ○やにめ ○はやりめ ○うみめ ○かすみめ ○めくさ
○外の眼藥で効なき人試よ。
○其他眼病諸症に効あり。
新式点眼器付十錢、卅錢郵税二錢 全國各藥店に取次す
本舗 大阪 東京 丹平商會藥房

電氣化學科特設(晝間)(夜間) 財團法人 電氣學校 生徒募集
豫科講義錄完成 校外生 講習生
■授業開始 十月十一日 豫科一期、二期、本科一期、二期本科一期選科高等科
■規則書は申込次第送附
■東京市神田區錦町
■電話本局七九八、五一三〇
■特殊の通信教授 普通の通信教授 隨時入學

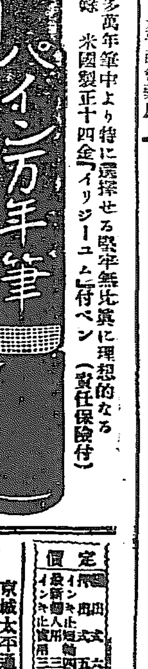
轉居 東京市芝區芝公園第五號ノ九 美濃部俊吉 電話芝七一九〇番

南洋製糖株式會社株券分與

理由 平岡定太郎若尾璋八尾崎敬義秋本喜七其他東京大阪に於ける有力家一百餘名の發起の下に近く糖業に最適地たる蘭領スマトラ島に於て企業せんとする南洋製糖株式會社は資本金六百萬圓株數拾貳萬株にて全部發起人並に賛成者に於て引受け別に一般に公募せざるが弊店は此の絶好なる放資物を公共の爲め特に持株の内五千株を江湖に提供せんとす詳細なる目論見書及收支豫算定款は御申込次第呈す

株式分與要項
一、分與株數 五千株
一、額面價額 壹株 金五拾圓
一、申込價格 (壹株に付額面超過金)七圓五拾錢以上
一、申込株單位 拾株以上
一、申込期限 大正六年八月十八日
一、募入決定法 申込株數に制限あるを以て超過の場合は申込價格の高きものより募入をなし其他は按分割當をなす
一、申込證據金 (壹株に付)金七圓五拾錢

朝鮮京城明治町二丁目四十三番地 京東合資會社桐生屋株式現物取扱店
桐生屋現物店 電話一一二六番



完全なる設備と老練なる技術者に依る 各種萬年筆即時修繕
弊社代理部が幾多萬年筆中より特に選擇せる堅牢無比眞に理想的なる
大日本政府登錄 米國製正十四金『イリジーユム』付ペン(責任保險付)
京城旭町二の六 東京パイン萬年筆出張所
定價 [illegible]
發賣元 京城太平通一丁目 京城日報代理部 振替京城三〇〇番
陳列所 京城本町二丁目 ウツボヤ書店

[illegible]

雜誌日本一 八月號 名流三十六大家の贅澤談 滿載萬斛
◎東西贅澤奇談…丸山侍童 ◎元祿豪奢物語…笹川臨風
婦人の贅澤 松居松葉
==三十六名家贅澤談==
江戸の贅澤 戸川殘花
◎贅澤罪悪論…高島米峰 ◎贅澤三昧…村上浪六
大隈侯自傳 澁澤男自傳 毎號連載
◎大阪陣(浪士招錄)…渡本日南
意外錄…和田垣博士 不滅の火―光淋の墓―大隈侯の失敗―一茶のオヤツカーサメカムメか
旅行案内書の革命…志賀重昂 過去の陳腐物―手と足で書く時代―新時代は頭で書く―アミーバ式の書き法
◎小唄供養(長篇小説)…小杉天外
兩面の百萬働…小金井蘆洲
逐號趣味横溢
定價拾五錢 南北社

皮膚病藥 ホシセプチン 定價金十錢
▲いんきん ▲たむし、しつ ▲ひせん、毛虱 ▲しらくも
東京南傳馬町三 星製藥株式會社 各地特約店及賣店にあり
特約店 京城府太平通二丁目三五 キムラ藥房

宮內省御用酒

菊正宗 天下逸品の灘釀 販賣店到る處にあり
朝鮮發賣元 合名會社 嘉納商店 本店 釜山倉庫部 (電話四三一一番 振替京城二七三一番)

花筐(八一)

松田竹の人作

京子が不滿らしい顏付を爲たけれども、最う金を充分に持つてゐたいで、窮乏りかけてゐるから、金が欲しさに、屹と自分の言ふことに從うだらうとお豐は思つた。

『だツて奥様、最う御金を澤山持つて居らツしやらないぢやありませんか、ですから妾は御不自由をおさせ申すまいと思ひましてねえ。』

『田淵さんも然うだつたが、お前も妾に操を破れと勸めるのだわね。』

『女の操なんて申すのは、往昔のことで、今では其麼ことを申して居りますようか、金のある方に身を任せて、一生を氣樂に暮す方が可いと思ひます。』

『其麼ことを言つて、眞個に呆れて了うわ。』

京子は思つた。お豐が言ふところの、自分を妻に欲しいと言つてゐる人は、若しか田淵のことではないかと

『お前が其麼ことを言ふところから考へると、妾を妻に爲たいと言つてる人といふのは、田淵のことぢやなくつて？』

『其通りでございますとも。』

お豐は、何時までも其人の名を言はずにゐるでもないと、斯う思ひ切つて言ひ、そして厭や應なしに、金で納得させやうと思つた。

これを聞いた京子は、其清しい眼を光らせて、嶮しい顏と爲つた。

『それぢやお前は、惡魔のやうな彼の田淵に頼まれてゐたのだわね。』

『貴方樣を御氣樂な御身分にして上げませうと思つて、田淵さんの御賴みを肯いたのでございます。』

『お前は見懸けによらない女だわねね。』

『將來御窮乏りに爲るよりか、田淵さんところに往らツしやつた方が宜しいぢやございませんか？』

『妾は、最う其麼ことを聞くのも厭やだ。妾が家出をしたのは、彼の惡魔の田淵に欺されたからで、甚麼ことがあつたツてあんな惡魔の妻なかに爲るもんかね。』

『貴方樣程強情なお方はございませんですよ。』

『だから此處を引き拂ふ意だわ』

『此處を引き拂つて、何處へ往くんです、貴方は今じや何處ツて往くところはないぢやありませんか、これから一人で遣つて往くんだツて、何んで貴女に一人で遣つて往かれるもんですか、米や金は道路におツこツちや居ませんからね、可笑しくツて仕樣がない。これから一人で遣つて往くといふのは、御面相の好いのを資物にして、淫賣婦にでも爲る氣なんでせう。田淵さんの奥樣に爲るのが、操を破るのなら、淫賣婦に爲るのは、什麼したんです。人を莫迦にするのも好い加減に爲した方が可いや。』

『お前を見損なつてゐたのが口惜しい。能くも妾を親切ごかしにして、今まで欺してゐたね。惡魔の手から出た這麼金、見るのも厭やらしい。これを持つて、さツさと出て往つておくれ。』

京子の怒りは激しく、前にあつた貳百圓束を取ると、お豐の胸の邊りへ叩きつけた。

お豐は、其貳百圓束を拾ひ取つたが、厭々しくつてならなかつた。最うこれまでだから、思ふ存分惡口して、腹癒を爲やうと思つた。

今まで叮嚀であつたのが、がらり變つて、下卑た言葉と爲つて、

『其麼に貴方が威張つたつて、此家屋は田淵さんから借りて貰つた家屋ぢやありませんか、田淵さんの御手から出た金が、見るも厭々しいと言ふ位なら、田淵さんから借りて貰つた此家に何故住んでゐるんでせす

◇大正一休と蜷川 越前永平寺の管長日置默仙氏は語つて曰く『私は東北地方を廻錫して名所古跡を視察する筈ぢやが其時にはいつも陸軍中將堀内文次郎氏を同伴する事とした、堀内氏も富士登山競爭に成功して大分喜んで居るそうぢや』そして一方の堀内中將は曰く『私は日置老師と東北地方を廻つて大に修養する』と此の双方の話を聞いた陸軍の某氏が曰く『之で滞りなく大正の一休と蜷川が出來上た譯だ』

◎二葉會小集

四日の夜龍頭館に於て二葉會同人が兩三名落ち合つて久濶振に句作をした、十時頃から夕立がして庭に鳴き出した虫の音も何となく秋の情緒が催して來た。(八五)

秋晴の空野氣球上りて高澄める 露醉
秋晴の海白帆正しく並べり 同
稻の葉に石灰白く秋暑し 同
魂來りて花が如し燈籠の灯 同
朝顔高く霧へり曠野の秋晴るゝ 京城遊家
昭立つゝ夕陽落ちて沼白し 同
秋晴る計頭の杉に小鳥鳴く 同
君は早や盤鋼の主となりにけり 帝史
大漁して戻る漁乃や秋晴の海 同
森草に花赤々と暑さ殘れり 同
翁心は滅せぬ貧の盤衛かな 同
京へ來た其夜を鋼の別れかな 同

【山城吟社句録】 奇石居例會=七、二一

帶締りて郵營戻りぬ柿の花 禾刀
糸取りて錦の艶や稻早る 同
山市の早る七夕竹寶る 同
背の色の蝗や蟷螂や草早 女
川狩や近く澄みて逃げぬ魚 孤
吉田近き溫泉も湧き出て小色哉 同
稻苅りて稻架る人村に入る 秋光女
風あれ陰雨戸打つなり柿の花 同
晒布流れのまゝに深へり きた女
花柿の蕊に蚕蠅む小猿哉 同
旱すや律ある哉に光る船 奇石
旱すや罪を移し行く袋蜘蛛 碧岳
生平著し男騎馬にて通りけり 元
柿の花夕づゝの沈むかなしみ 同
水夫の瞳に幻影映る旱哉 同

◎明治大學近況 同大學にては來九月より法科商科及政治經濟科各專門部の新學年度に大學豫科第二學期入學に付目下學生募集中なるが各專門部學生は之を正科特科の二種に分つも商科に於ては正科生のみに入學を許可する由然して中學卒業及同資格者は正科に無試驗入學其他は檢定の上特科に入學を許し又各科大學本科は大學豫科卒業者の入學すべきものなるに依り新學年に於て別に募集をなさず各專門部特科部に大學豫科入學及上級編入試驗は來九月八日施行する由因に同大學は七月第六十二回卒業式を擧行せしが卒業者三百餘人内朝鮮出身者は左記八名にして金泰榮及金命洙の兩氏は在學中誠に卒業試驗成績共優等の故を以て賞品を授與せられたりと

金泰榮(法) 金命洙(法) 車承鎬(法) 鄭雲翔(法) 李泰英(法) 金英洙(法) 金翼之(法) 朴升洙(法)

新刊紹介

▲響(柳川春葉氏著) 柳川春葉氏の出物は新聞の一篇に盡し…(中下編各一冊一圓二十錢 東京日本橋本石町三玄誠堂)

▲實驗生命論(勇部理學博士著) 人間を初め有ゆる生物の生命に就て說明したるもの、第一章生長より成長と癒合、衣食の影響、老衰と若がへり、自然死の問題、死の外因等を編み六章に別つて詳説せり(二十錢 東京神田南神保町一六岩波書店)

▲山城吟社句集 小原農商工部長官が忠清道長官たりし時、上のなすところ下之に習ひて…(京城吟社)

▲帝國亞時論(八月號) 黑龍會の發行に成るもの…(一冊三十錢 東京赤坂區…黑龍會)

▲電氣化學(二ノ八) 一部三十錢 東京麴町一、三電氣化學研究會

▲愛と自然(逸藝誌號) 一冊三十錢 東京靜岡…

▲葵(一ノ六) 一部十八錢 大阪…

▲醫事時論(二三三) 一冊十八錢 …

▲日本幼年(九月號) 讀物、目の醒める様な幼兒専門の可愛らしい雜誌である(一冊十二錢 東京…)

▲實業新報(二五ノ二九三) 一部十八錢 東京日本橋區…

▲東方時論(八月號) 一部三十錢 東京牛込區…

▲工業生活(八月號) 一部十錢 東京小石川區…

▲金星(五ノ八) 一部二十五錢 東京丸の内…

▲東洋皮革新誌(一三ノ一五) 一部十錢 大阪東區…

▲農業雜誌(創刊四十二年ノ一一八七) 一部八錢 東京麻布本村町學農社

◎蠅取散大賣出 今般内地の製造元と協約し其の筋の認可を得て蠅とり散を賣り出せり、同藥は最新の毒劑にて蠅、ピンデ其の他牛馬の蟲及び草木の害蟲を斃すには極めて卓効あり而かも動物には絶對に無害なりと

自轉車の警戒はベル人力車の警戒はラッパ其何れは問ふ所でないが兎に角一定したならば本町の樣な前後左右に氣を配らなければならぬ通では如何程便利であるか知れぬ内地の都市では其例がある現に下關では人力車が皆ラッパである一擧手一投足の勞に過ぎない當局者の一考を煩はす(子持女)▲旭町一丁目の總代さんは料理屋の夜間騷動を指摘されたが素人の宅でも下手な淨瑠璃や謠を十二時一時まで唸られるのも閉口だそれでなくとも蒸し暑くて眠れない此頃である他人の趣味に文句云ふ譯ではないが近所の人の迷惑にならぬ樣に願ひます(大和町一本筋)▲内地では兒童に活動寫眞を見せては惡いと云ふ事になつたらしいが吾輩は反對だ無論殘酷なものや何にかを見せるのは贊成せぬが喜劇や風景は努めて見せるのが好い(老先生)▲朝鮮に避暑だとか何とか騷いで見得を張りたがる愚者が案外多いには驚く彼の連中はたしかに夏に征服せられた人達だらうが川變想に暑さに敗北した連中だろう(腕腕博士)

●駐米獨大使の秘書 獨帝の思惑と英國參戰

於てウキルソン氏の調停申出に答へて獨帝の送りたる返書(千九百十四年八月十九日附)の本文あり右返書 … 戰爭起りし場合 … ▲英吉利は中立を守るべしと保障せり … と主張せるが英國皇帝がカイゼルに對し貴下が英國にして若し中立維持の保障だに與へなば … 白耳義に入らんと準備中なりとの報を得たるに拘はらず白耳義國王は其國の自由を保障する條件の下に獨軍 … ▲外相グレー卿が英國は白耳義の國土を防護せざるべからずと … 帝自ら手交せる書状なるが … ▲其際獨逸皇帝は戰爭に就 … 彼等にして參戰せば戰爭は短期間に終熄せざるべしと嘆息せりと

… となりたるが同人は身長五尺二寸、右腕に『山口』と刺文をなし兩眼の間に創痕あり(大阪特電)

ホーカー白粉 寫眞帳(一)

結婚前と結婚後の お年柄とお場所柄との 白さの濃淡を現はすには

ノリノビ自由な新發見の 煉白粉 ホーカー白粉 をお顔の汗を一度お洗ひ落しの後へ、顎から頰へ向けお塗下さい

●面白い白粉の試驗實話● 先頃大分縣下別府溫泉の藝妓連の内選抜して美形二十名を一日中引廻して溫泉の鑛物試驗と、海岸の日ヤケ試驗とを致し、ホーカー白粉は絶對に變色しない事を證明しました。

定價 一瓶(アーチ箱入) 二十五錢 暑中見舞進物箱(三個入) 七十五錢 送料 一箇内地無料

□全國到處に販賣す 品切の際は振替、又は三錢切手代用にて御注文あれ

ホーカー液 ホーカー白粉 ホーカー美髮液 ホーカースヰート

東京神田和泉橋際 本舗 堀越嘉太郎商店 電話神田 二四一四 長特四五五五 振替東京 二三六

中央婦人病院 京城明治町二丁目(元逓信病院下横通) 電話二三四〇番 院長 衣笠茂

ハカリ印

ねびえかぜ

夏の感冒は大抵寢冷から起り熱が解れ難く苦いものである言ふ迄もなく此感冒は肺炎又はチブスに變じ易く腸を惡くすると赤痢にもなり易い

ハカリ印のヘプリン丸はねびえかぜは勿論總て熱病に驚くべき偉効あるが故に早速服用して全快せらるべし

眼科專門 入院隨意 京城明治町東拓横(電話二〇四四番) 江頭眼科醫院 日曜祭日午後二時迄 江頭富雄

○飲み過ぎ○食過ぎ○消化不良○りうゐん○胸の痞へ○胸の痛み○慢性胃弱諸症に妙です ●各藥店にあり 本舗 大阪江戸堀 猪飼史郎藥房

日本郵船仁川出帆
○大連行、太沽(天津)牛莊行
相模丸 八月廿八日正午出帆
高砂丸 九月 七日正午出帆
二河丸 八月十六日正午出帆
仁川海岸町十一番地 回漕店

同共同汽船仁川出帆
之罘、大連行
第廿五共同丸 八月十五日午後入港 八月十七日前十時出帆
阿波共同汽船株式會社
本町四丁目(電話一七三番) 仁川代理店 野口商會
元山代理店 京城取次店

汽船釜山出帆廣告
門司、神戸、大阪行
○和歌浦丸 八月廿五日後五時出帆
○立神丸 八月十四日後五時出帆
元山、清津、浦鹽行
○和歌浦丸 八月十三日後十時出帆
○立神丸 八月廿四日後四時出帆
○元山、西湖、新浦、城津、清津行 第三琴平丸 月 日後六時出帆
○門司、宇品、神戸、大阪行 第三琴平丸 月 日後六時出帆
○佐須奈、嚴原、壹岐、博多行 天草丸 毎月二日九日十六日廿三日廿六日午後十時出帆
本船取扱店 釜山埠頭 大池回漕部

尼崎汽船仁川出帆
群山、木浦、釜山、下關、神戸、大阪行
○君が代丸 八月十三日後四時出帆
○有吉丸 八月廿四日後四時出帆
○大吉丸 月 日後四時出帆
▲秀代丸 月 日後四時出帆
▲神代丸
▲印大阪直行 仁川海岸通一丁目 電話五十九番 高杉回漕部

朝鮮郵船出帆
本社 電話長一九五三番
京城南大門驛前 松原運送店
○關門より釜山各地經由雄基行 但し×印あるは江原道寄港せず
×京畿丸 八月十四日
忠清丸 八月十九日
咸鏡丸 八月廿九日
×平壤丸 八月廿四日 釜山發
○元山より各地經由雄基行
鏡城丸 八月十五日
鏡城丸 八月十九日
三浦丸 八月廿三日 元山發
○浦潮行(元山より城津清津經由)
平安丸 八月 日 元山發
○元山長箭間
鏡城丸 八月十八日
咸鏡丸 八月二十日
穩城丸 八月廿四日 元山發
○釜山元山間
慶寶丸 八月 日 釜山發 八月 日 元山發
○鬱陵島行浦項及各地經由
鬱德丸 八月十四日 釜山發
○浦項行(長生浦方魚津甘浦九龍浦經由)
江陵丸 裏陽丸 毎日 釜山發
○濟州島行長承浦麗水巨文島經由
昌平丸 八月 日 釜山發
○麗水行(各地經由)
濟州丸 統營丸 巨濟丸 毎日 釜山發
○木浦麗水間(麗水にて釜山行接續)
順天丸 南陽丸 三日目毎に木浦發
○木浦より濟州島行各島經由
東廻 公州丸 八月十五日
西廻 慶興丸 八月十七日 木浦發
○多島海各島行
慶興丸 八月 日 木浦發
○木浦行(群山其他各地經由)
晉州丸 八月十七日
麗水丸 八月 日 仁川發
○鎭南浦行(海州其他各地經由)
宗信丸 八月十七日 仁川發
○海州行(江華島喬桐島經由)
全州丸 錦江丸 毎日 仁川發 但し三十一日は休航
○靑島行(芝罘、大連經由)
江原丸 八月廿一日 仁川發